別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計　画　の　区　分		学部の学科の設置							
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾄｳｶｲﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　東海大学							
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称		ﾄｳｶｲﾀﾞｲｶﾞｸ 東海大学（Tokai University）							
大　学　本　部　の　位　置		神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大　学　の　目　的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的		本学科は、大学・学部の教育目的に沿って、「地域の持続的発展に貢献するための食料生産に関する専門的知識を実践的に身に付けていくこと」に加え、刻々と変化していく社会に対して「確固たる自然観や生命観を有し、揺るぎなく進むべき道筋を見出す創造性」「自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力」を身に付けた豊かな人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	農学部 [Undergraduate School of Agriculture]								
	農学科 [Department of Agriculture]	4	80	―	320	学士（農学） [Bachelor of Agriculture]	令和４年４月 第１年次	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1 熊本県上益城郡益城町杉堂871-12	
	計		80	―	320				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	農学部農学科	33科目	10科目	15科目	58科目		124単位		

教員組織の概要		学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)	
	新設分	児童教育学部児童教育学科	9 (7)	5 (5)	6 (5)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	20 (9)	令和３年３月認可申請
	新設分	経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)	令和３年４月届出予定
	新設分	国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	令和３年４月届出予定
	新設分	情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	令和３年４月届出予定
	新設分	情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)	令和３年４月届出予定
	新設分	工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	20 (20)	令和３年４月届出予定
	新設分	工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)	令和３年４月届出予定
	新設分	工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	21 (21)	令和３年４月届出予定
	新設分	建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)	令和３年４月届出予定
	新設分	建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)	令和３年４月届出予定
	新設分	人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	令和３年４月届出予定
	新設分	海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	20 (20)	令和３年４月届出予定
	新設分	文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	令和３年４月届出予定
	新設分	文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	13 (13)	令和３年４月届出予定
	新設分	文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	17 (17)	令和３年４月届出予定
	新設分	農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	令和３年４月届出予定
	新設分	農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)	令和３年４月届出予定
	新設分	計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)	— —	
	既設分	文学部文明学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	
	既設分	文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)	
	既設分	文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	16 (16)	
	既設分	文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
	既設分	文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)	
	既設分	文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)	
	既設分	文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	
	既設分	文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	
	既設分	文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	
	既設分	文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)	
	既設分	政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
	既設分	政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	
	既設分	法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
	既設分	教養学部人間環境学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	27 (27)	
	既設分	教養学部芸術学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	88 (88)	
	既設分	体育学部体育学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
	既設分	体育学部競技スポーツ学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	
	既設分	体育学部武道学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)	
	既設分	体育学部生涯スポーツ学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
	既設分	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	

教員組織の概要									
	既設分	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	8 (7)	4 (4)	4 (0)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
		生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	— —
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
		計	64 (64)	66 (66)	47 (47)	8 (8)	185 (185)	0 (0)	— —
	合　　計		594 (591)	360 (360)	386 (381)	426 (426)	1766 (1758)	0 (0)	— —

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	779 (779)	269 (269)	1048 (1048)	
	技術職員	57 (57)	2 (2)	59 (59)	
	図書館専門職員	44 (44)	22 (22)	66 (66)	
	その他の職員	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
	計	888 (888)	293 (293)	1181 (1181)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし
	校舎敷地	1,770,691.41 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	1,772,744.29 ㎡	内借用地：55,045.86㎡
	運動場用地	396,797.97 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	396,797.97 ㎡	内借用地：47,282.12㎡
	小計	2,167,489.38 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	2,169,542.26 ㎡	
	その他	211,174.76 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	211,174.76 ㎡	内借用地：153,717.23㎡
	合計	2,378,664.14 ㎡	2,052.88 ㎡	0.00 ㎡	2,380,717.02 ㎡	借用期間：2～30年

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	532,456.15 ㎡ (532,456.15 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	532,456.15 ㎡ (532,456.15 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設
	480 室	328 室	1,260 室	79 室 （補助職員 20 人）	6 室 （補助職員 0 人）

大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	農学部農学科	18 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	農学部農学科	42,010〔6,700〕 (41,544〔6,579〕)	3,895〔3,105〕 (3,796〔3,014〕)	2,920〔2,850〕 (2,832〔2,763〕)	620 (597)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	大学全体での共用として、電子データベースは37種[うち国外16種] 学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約45,000種［うち国外約42,200種］ 電子ブックは約12,700点［うち国外約7,000点］ が利用可能。
	計	42,010〔6,700〕 (41,544〔6,579〕)	3,895〔3,105〕 (3,796〔3,014〕)	2,920〔2,850〕 (2,832〔2,763〕)	620 (597)	0〔0〕 (0〔0〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	21,687.00 ㎡	3,734 席	2,318,166 冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	大学全体
	24,060.79 ㎡	トレーニングセンター / 25mプール	

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
		教員１人当り研究費等		280千円	280千円	280千円	280千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等		700千円	700千円	700千円	700千円	— 千円	— 千円
		図書購入費	200千円	240千円	280千円	320千円	360千円	— 千円	— 千円
		設備購入費	6,730千円	267,600千円	6,730千円	6,730千円	6,730千円	— 千円	— 千円

図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,545千円	1,345千円	1,345千円	1,345千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、手数料等

既設大学等の状況

大学の名称	東海大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍			
文学部		**370**	**ー**	**1,480**		**1.02**	**昭和25年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
文明学科	4	60	ー	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
ｱｼﾞｱ文明学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
ﾖｰﾛｯﾊﾟ文明学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
ｱﾒﾘｶ文明学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
北欧学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
歴史学科		130	ー	520		1.02	昭和35年	〃	
日本史専攻	4	50	ー	200	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
東洋史専攻	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
西洋史専攻	4	50	ー	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
考古学専攻	4	30	ー	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
日本文学科	4	90	ー	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
文芸創作学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	90	ー	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
広報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
心理・社会学科	4	ー	ー	ー	学士(文学)	ー	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
文化社会学部		**450**	**ー**	**1,800**		**1.01**	**平成30年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
ｱｼﾞｱ学科	4	70	ー	280	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科	4	70	ー	280	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
北欧学科	4	60	ー	240	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
文芸創作学科	4	60	ー	240	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
広報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	100	ー	400	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
心理・社会学科	4	90	ー	360	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
政治経済学部		**480**	**ー**	**1,920**		**1.00**	**昭和41年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
政治学科	4	160	ー	640	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
経済学科	4	160	ー	640	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
経営学科	4	160	ー	640	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃	
法学部		**300**	**ー**	**1,200**		**1.01**	**昭和61年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
法律学科	4	300	ー	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
教養学部		**330**	**ー**	**1,320**		**1.03**	**昭和43年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
人間環境学科		160	ー	640		1.01	昭和43年	〃	
自然環境課程	4	65	ー	260	学士(教養学)	0.97	昭和43年	〃	
社会環境課程	4	95	ー	380	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
芸術学科		90	ー	360		1.03	昭和43年	〃	
音楽学課程	4	32	ー	128	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
美術学課程	4	20	ー	80	学士(教養学)	1.08	昭和43年	〃	
ﾃﾞｻﾞｲﾝ学課程	4	38	ー	152	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
国際学科	4	80	ー	320	学士(教養学)	1.09	昭和47年	〃	
体育学部		**480**	**ー**	**1,920**		**1.01**	**昭和42年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
体育学科	4	110	ー	440	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
競技ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	140	ー	560	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
武道学科	4	60	ー	240	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	110	ー	440	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	60	ー	240	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
健康学部		**200**	**ー**	**800**		**1.02**	**平成30年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	200	ー	800	学士（健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学）	1.02	平成30年	〃	
理学部		**320**	**ー**	**1,280**		**0.98**	**昭和39年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数学科	4	80	ー	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
情報数理学科	4	80	ー	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
物理学科	4	80	ー	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
化学科	4	80	ー	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
情報理工学部		**200**	**ー**	**800**		**1.03**	**平成13年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
情報科学科	4	100	ー	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科	4	100	ー	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	

既設大学等の状況

工学部		**1,390**	**－**	**5,560**		**1.01**	**昭和25年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
生命化学科	4	100	－	400	学士(工学)	0.99	平成13年	〃	
応用化学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成13年	〃	
光・画像工学科	4	60	－	240	学士(工学)	1.02	平成18年	〃	
原子力工学科	4	40	－	160	学士(工学)	0.89	平成18年	〃	
電気電子工学科	4	140	－	560	学士(工学)	1.04	平成18年	〃	
材料科学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.98	昭和41年	〃	
建築学科	4	200	－	800	学士(工学)	1.07	昭和41年	〃	
土木工学科	4	120	－	480	学士(工学)	1.05	昭和41年	〃	
精密工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.06	昭和46年	〃	
機械工学科	4	140	－	560	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃	
動力機械工学科	4	150	－	600	学士(工学)	0.99	昭和46年	〃	
航空宇宙学科		140	－	560		0.99	昭和42年	〃	
航空宇宙学専攻	4	90	－	360	学士(工学)	1.03	昭和42年	〃	
航空操縦学専攻	4	50	－	200	学士(工学)	0.93	昭和42年	〃	
医用生体工学科	4	60	－	240	学士(工学)	1.04	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
観光学部		**200**	**－**	**800**		**1.03**	**平成22年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
観光学科	4	200	－	800	学士(観光学)	1.03	平成22年	〃	
情報通信学部		**320**	**－**	**1,280**		**1.02**	**平成20年**	東京都港区高輪2-3-23	
情報ﾒﾃﾞｨｱ学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃	
組込みｿﾌﾄｳｪｱ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.07	平成20年	〃	
経営ｼｽﾃﾑ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.00	平成20年	〃	
通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科	4	80	－	320	学士(工学)	1.04	平成20年	〃	
海洋学部		**530**	**－**	**2,120**		**1.00**	**昭和37年**	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
海洋文明学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.00	平成16年	〃	
環境社会学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.06	平成23年	〃	
海洋地球科学科	4	80	－	320	学士(海洋学)	1.01	平成23年	〃	
水産学科	4	120	－	480	学士(海洋学)	1.04	平成18年	〃	
海洋生物学科	4	90	－	360	学士(海洋学)	1.03	平成18年	〃	
航海工学科		80	－	320		0.83	平成23年	〃	
航海学専攻	4	20	－	80	学士(海洋学)	0.96	平成23年	〃	
海洋機械工学専攻	4	60	－	240	学士(海洋学)	0.78	平成23年	〃	
医学部		**203**	**－**	**1,048**		**0.90**	**昭和49年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	
医学科	6	118	－	708	学士(医学)	0.88	昭和49年	〃	
看護学科	4	85	－	340	学士(看護学)	0.97	平成30年	〃	
健康科学部							**平成7年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	平成30年度より学生募集停止
看護学科	4	－	－	－	学士(看護学)	－	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
社会福祉学科	4	－	－	－	学士(社会福祉学)	－	平成7年	〃	平成30年度より学生募集停止
経営学部		**230**	**－**	**920**		**0.99**	**平成25年**	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
経営学科	4	150	－	600	学士(経営学)	1.04	平成25年	〃	
観光ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	4	80	－	320	学士(経営学)	0.92	平成25年	〃	
基盤工学部		**140**	**－**	**560**		**0.74**	**平成25年**	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
電気電子情報工学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.73	平成25年	〃	
医療福祉工学科	4	60	－	240	学士(工学)	0.77	平成25年	〃	
農学部		**230**	**－**	**920**		**0.89**	**平成20年**	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
応用植物科学科	4	80	－	320	学士(農学)	0.95	平成20年	〃	
応用動物科学科	4	80	－	320	学士(農学)	0.88	平成20年	〃	
ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	4	70	－	280	学士(農学)	0.86	平成20年	〃	
国際文化学部		**260**	**－**	**1,040**		**1.01**	**平成20年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
地域創造学科	4	110	－	440	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	80	－	320	学士(教養学)	1.05	平成20年	〃	
ﾃﾞｻﾞｲﾝ文化学科	4	70	－	280	学士(教養学)	0.89	平成24年	〃	
生物学部		**140**	**－**	**560**		**1.02**	**平成24年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
生物学科	4	70	－	280	学士(理学)	0.99	平成24年	〃	
海洋生物科学科	4	70	－	280	学士(理学)	1.05	平成24年	〃	

既設大学等の状況

≪大学院≫										
総合理工学研究科								**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等	
総合理工学専攻	博士課程	3	35	―	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47	平成17年	〃	
地球環境科学研究科								**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等	令和3年度より学生募集停止
地球環境科学専攻	博士課程	3	―	―	―	博士(理学)・博士(工学)	―	平成17年	〃	令和3年度より学生募集停止
生物科学研究科								**平成17年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1　等	
生物科学専攻	博士課程	3	10	―	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(水産学)	0.10	平成17年	〃	
文学研究科								**昭和44年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
文明研究専攻	博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	〃	
文明研究専攻	博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	〃	
史学専攻	博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	〃	
史学専攻	博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃	
日本文学専攻	博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	〃	
日本文学専攻	博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	〃	
英文学専攻	博士課程前期	2	4	―	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	〃	
英文学専攻	博士課程後期	3	2	―	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃	
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	博士課程前期	2	8	―	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	〃	
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	博士課程後期	3	4	―	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	〃	
観光学専攻	修士課程	2	8	―	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	〃	
政治学研究科								**昭和46年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
政治学専攻	博士課程前期	2	10	―	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	〃	
政治学専攻	博士課程後期	3	5	―	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	〃	
経済学研究科								**昭和54年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	―	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	〃	
応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	―	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃	
法学研究科								**平成2年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
法律学専攻	博士課程前期	2	10	―	20	修士(法学)	0.00	平成16年	〃	
法律学専攻	博士課程後期	3	5	―	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃	
人間環境学研究科								**平成19年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
人間環境学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(学術)	0.45	平成19年	〃	
芸術学研究科								**昭和48年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
音響芸術専攻	修士課程	2	4	―	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃	
造型芸術専攻	修士課程	2	4	―	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃	
体育学研究科								**昭和51年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
体育学専攻	博士課程前期	2	20	―	35	修士(体育学)	1.36	昭和51年	〃	
体育学専攻	博士課程後期	3	3	―	3	博士(体育学)	－	令和3年	〃	
理学研究科								**昭和43年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
数理科学専攻	修士課程	2	8	―	16	修士(理学)	0.56	昭和43年	〃	
物理学専攻	修士課程	2	12	―	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	〃	
化学専攻	修士課程	2	12	―	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	〃	
工学研究科								**昭和38年**	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
電気電子工学専攻	修士課程	2	50	―	100	修士(工学)	1.03	平成28年	〃	
応用理化学専攻	修士課程	2	45	―	90	修士(工学)	1.24	平成28年	〃	
建築土木工学専攻	修士課程	2	25	―	50	修士(工学)	1.16	平成28年	〃	
機械工学専攻	修士課程	2	75	―	150	修士(工学)	1.21	平成28年	〃	
医用生体工学専攻	修士課程	2	8	―	16	修士(工学)	0.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
情報通信学研究科								**平成24年**	東京都港区高輪2-3-23	
情報通信学専攻	修士課程	2	30	―	60	修士(情報通信学)	0.99	平成24年	〃	
海洋学研究科								**昭和42年**	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
海洋学専攻	修士課程	2	20	―	40	修士(海洋学)	0.65	平成27年	〃	

既設大学等の状況											
	医学研究科								**昭和55年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	―	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃	
	健康科学研究科								**平成11年**	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃	
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	―	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃	
	農学研究科								**平成20年**	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	―	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃	
	生物学研究科								**令和2年**	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	―	16	修士 (理学)	0.25	令和2年	〃	
	大学の名称		東海大学短期大学部								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		**2**	―	―	―	短期大学士(食物栄養学)	―	**昭和41年**	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		**2**	―	―	―	短期大学士(児童教育学)	―	**昭和44年**	〃	令和2年度より学生募集停止
	大学の名称		東海大学医療技術短期大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		**3**	―	―	―	短期大学士(看護学)	―	**昭和49年**	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名　　称：東海大学医学部付属病院 目　　的：医療機関 所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年２月 規 模 等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡ 名　　称：東海大学医学部付属東京病院 目　　的：医療機関 所 在 地：東京都渋谷区代々木１－２－５ 設置年月：昭和58年12月 規 模 等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ 名　　称：東海大学医学部付属大磯病院 目　　的：医療機関 所 在 地：神奈川県中郡大磯町月京21－１ 設置年月：昭和59年４月 規 模 等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡ 名　　称：東海大学医学部付属八王子病院 目　　的：医療機関 所 在 地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年３月 規 模 等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡ 名　　称：望星丸 目　　的：海洋調査研修 所 在 地：東京都（船籍港） 設置年月：平成５年３月（進水の年月） 規 模 等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m	

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△１６０）　※令和４年４月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△１００）　※令和４年４月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△　６０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△　４０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△２００）　※令和４年４月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△１２０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△１５０）　※令和４年４月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△　６０）　※令和４年４月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△　８０）※令和４年４月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△　２０）　※令和４年４月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△　６０）　※令和４年４月学生募集停止
経営学部（廃止）　※令和４年４月学生募集停止
　経営学科（廃止）（△１５０）　※令和４年４月学生募集停止
　観光ビジネス学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
基盤工学部（廃止）　※令和４年４月学生募集停止
　電気電子情報工学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
　医療福祉工学科（廃止）（△　６０）　※令和４年４月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△　８０）　※令和４年４月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△　７０）　※令和４年４月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△　７０）　※令和４年４月学生募集停止

児童教育学部（令和３年３月認可申請）
　児童教育学科（１５０）
経営学部（令和３年４月届出予定）
　経営学科（２３０）
国際学部（令和３年４月届出予定）
　国際学科（２００）
情報理工学部情報メディア学科（１００）（令和３年４月届出予定）
工学部生物工学科（１００）（令和３年４月届出予定）
工学部機械システム工学科（１４０）（令和３年４月届出予定）
工学部医工学科（８０）（令和３年４月届出予定）
建築都市学部（令和３年４月届出予定）
　建築学科（２４０）
　土木工学科（１００）
情報通信学部情報通信学科（２４０）（令和３年４月届出予定）
人文学部（令和３年４月届出予定）
　人文学科（１８０）
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（１３０）（令和３年４月届出予定）
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（２０）（令和３年４月届出予定）
文理融合学部（令和３年４月届出予定）
　経営学科（１３０）
　地域社会学科（１００）
　人間情報工学科（７０）
農学部動物科学科（８０）（令和３年４月届出予定）
農学部食生命科学科（７０）（令和３年４月届出予定）

政治経済学部
　政治学科〔定員増〕（４０）（令和４年４月）
　経済学科〔定員増〕（４０）（令和４年４月）
教養学部
　人間環境学科〔定員減〕（△４０）（令和４年４月）
　芸術学科〔定員減〕（△２０）（令和４年４月）
体育学部
　体育学科〔定員増〕（１０）（令和４年４月）
　競技スポーツ学科〔定員増〕（３０）（令和４年４月）
　生涯スポーツ学科〔定員増〕（１０）（令和４年４月）
　スポーツ･レジャーマネジメント学科〔定員増〕（１０）（令和４年４月）
工学部
　応用化学科〔定員増〕（２０）（令和４年４月）
　電気電子工学科〔定員減〕（△２０）（令和４年４月）
海洋学部
　海洋生物学科〔定員減〕（△１０）（令和４年４月）
医学部
　看護学科〔定員増〕（１０）（令和４年４月）
生物学部
　生物学科〔定員増〕（５）（令和４年４月）
　海洋生物科学科〔定員増〕（５）（令和４年４月）

学校法人東海大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

東海大学

学　部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		90	—	360	
文化社会学部	ｱｼﾞｱ学科		70	—	280	
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報ﾒﾃﾞｨｱ学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		160	—	640	
	経済学科		160	—	640	
	経営学科		160	—	640	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		ﾃﾞｻﾞｲﾝ学課程	38	—	152	
	国際学科		80	—	320	
体育学部	体育学科		110	—	440	
	競技ｽﾎﾟｰﾂ学科		140	—	560	
	武道学科		60	—	240	
	生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科		110	—	440	
	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		60	—	240	
健康学部	健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		140	—	560	
	動力機械工学科		150	—	600	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科		80	—	320	
	組込みｿﾌﾄｳｪｱ工学科		80	—	320	
	経営ｼｽﾃﾑ工学科		80	—	320	
	通信ﾈｯﾄﾜｰｸ工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで
	看護学科		85	—	340	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	

令和4年度

東海大学

学　部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200		
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
	英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科		90	—	360		
文化社会学部	ｱｼﾞｱ学科		70	—	280		
	ﾖｰﾛｯﾊﾟ・ｱﾒﾘｶ学科		70	—	280		
	北欧学科		60	—	240		
	文芸創作学科		60	—	240		
	広報ﾒﾃﾞｨｱ学科		100	—	400		
	心理・社会学科		90	—	360		
政治経済学部	政治学科		**200**	—	**800**		**定員変更（40）**
	経済学科		**200**	—	**800**		**定員変更（40）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
経営学部	**経営学科**		**230**	—	**920**		**学部の設置（届出）**
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科		**120**	—	**480**		**定員変更（△40）**
	芸術学科		**70**	—	**280**		**定員変更（△20）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
国際学部	**国際学科**		**200**	—	**800**		**学部の設置（届出）**
児童教育学部	**児童教育学科**		**150**	—	**600**		**学部の設置（認可申請）**
体育学部	体育学科		**120**	—	**480**		**定員変更（10）**
	競技ｽﾎﾟｰﾂ学科		**170**	—	**680**		**定員変更（30）**
	武道学科		60	—	240		
	生涯ｽﾎﾟｰﾂ学科		**120**	—	**480**		**定員変更（10）**
	ｽﾎﾟｰﾂ・ﾚｼﾞｬｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		**70**	—	**280**		**定員変更（10）**
健康学部	健康ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科		200	—	800		
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ応用工学科		100	—	400		
	情報ﾒﾃﾞｨｱ学科		**100**	—	**400**		**学部の学科の設置（届出）**
工学部			**0**	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	生物工学科		**100**	—	**400**		**学部の学科の設置（届出）**
	応用化学科		**100**	—	**400**		**定員変更（20）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	電気電子工学科		**120**	—	**480**		**定員変更（△20）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	機械システム工学科		**140**	—	**560**		**学部の学科の設置（届出）**
	機械工学科		140	—	560		
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360		
		航空操縦学専攻	50	—	200		
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	医工学科		**80**	—	**320**		**学部の学科の設置（届出）**
建築都市学部	**建築学科**		**240**	—	**960**		**学部の設置（届出）**
	土木工学科		**100**	—	**400**		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部			**0**	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	情報通信学科		**240**	—	**960**		**学部の学科の設置（届出）**
人文学部	**人文学科**		**180**	—	**720**		**学部の設置（届出）**
海洋学部			**0**	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		**80**	—	**320**		**定員変更（△10）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
	海洋理工学科	**海洋理工学専攻**	**130**	—	**520**		**学部の学科の設置（届出）**
		航海学専攻	**20**	—	**80**		
医学部	医学科		110	—	660		**臨時定員増（8）は令和3年度まで**
	看護学科		**95**	—	**380**		**定員変更（10）**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
			0	—	**0**		**令和4年4月学生募集停止**
文理融合学部	**経営学科**		**130**	—	**520**		**学部の設置（届出）**
	地域社会学科		**100**	—	**400**		
	人間情報工学科		**70**	—	**280**		

令和3年度

農学部	応用植物科学科	80	—	320	
	応用動物科学科	80	—	320	
	ﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ学科	70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	80	—	320	
	ﾃﾞｻﾞｲﾝ文化学科	70	—	280	
生物学部	生物学科	70	—	280	
	海洋生物科学科	70	—	280	
計		6773	—	27328	

令和4年度

農学部		**0**	—	**0**	**令和4年4月学生募集停止**
	農学科	**80**	—	**320**	**学部の学科の設置（届出）**
		0	—	**0**	**令和4年4月学生募集停止**
	動物科学科	**80**	—	**320**	**学部の学科の設置（届出）**
		0	—	**0**	**令和4年4月学生募集停止**
	食生命科学科	**70**	—	**280**	**学部の学科の設置（届出）**
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	80	—	320	
		0	—	**0**	**令和4年4月学生募集停止**
生物学部	生物学科	**75**	—	**300**	**定員変更（5）**
	海洋生物科学科	**75**	—	**300**	**定員変更（5）**
計		**6855**	—	**27640**	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	（D）	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	（D）	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	史学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	日本文学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	英文学専攻	（M）	4	—	8	
		（D）	2	—	6	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	（M）	8	—	16	
		（D）	4	—	12	
	観光学専攻	（M）	8	—	16	
政治学研究科	政治学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	（M）	10	—	20	
		（D）	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	（M）	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	（M）	4	—	8	
	造型芸術専攻	（M）	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	（M）	20	—	40	
		（D）	3	—	9	
理学研究科	数理科学専攻	（M）	8	—	16	
	物理学専攻	（M）	12	—	24	
	化学専攻	（M）	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	（M）	50	—	100	
	応用理化学専攻	（M）	45	—	90	
	建築土木工学専攻	（M）	25	—	50	
	機械工学専攻	（M）	75	—	150	
	医用生体工学専攻	（M）	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	（M）	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	（M）	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	（M）	10	—	20	
	先端医科学専攻（4年制D）	（D）	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	（M）	10	—	20	
	保健福祉学専攻	（M）	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	（M）	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	（M）	8	—	16	
計			563	—	1277	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	（D）	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻	（D）	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	史学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	日本文学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	英文学専攻	（M）	4	—	8		
		（D）	2	—	6		
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学専攻	（M）	8	—	16		
		（D）	4	—	12		
	観光学専攻	（M）	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	（M）	10	—	20		
		（D）	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	（M）	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	（M）	4	—	8		
	造型芸術専攻	（M）	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	（M）	20	—	40		
		（D）	3	—	9		
理学研究科	数理科学専攻	（M）	8	—	16		
	物理学専攻	（M）	12	—	24		
	化学専攻	（M）	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	（M）	50	—	100		
	応用理化学専攻	（M）	45	—	90		
	建築土木工学専攻	（M）	25	—	50		
	機械工学専攻	（M）	75	—	150		
	医用生体工学専攻	（M）	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	（M）	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	（M）	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	（M）	10	—	20		
	先端医科学専攻（4年制D）	（D）	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	（M）	10	—	20		
	保健福祉学専攻	（M）	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	（M）	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	（M）	8	—	16		
計			563	—	1277		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ現代文明論		現代文明論	2前	2			○								兼1
		小計（1科目）	—	2	0	0	—								兼1
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールＡ	1前	2				○		4	1	3			
		入門ゼミナールＢ	1後	2				○		4	1	3			
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			4	1	3	0	0	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	2			○			1					
		地域・国際理解	1後	2			○			1					
		現代教養講義	2後	2			○								兼1
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			1	0	0	0	0	兼1
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					○						兼1
		生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					○						兼1
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1前・後	2					○						兼1
		英語リーディング＆ライティング	1前・後	2					○						兼1
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目	学部共通科目	農学概論Ａ	1前・後	2			○								兼1	
		農学概論Ｂ	1前・後	2			○								兼1	
		情報リテラシー	1前		2			○							兼1	
		生物学実験	1後	1					○						兼1	
		化学実験	1後	1					○						兼1	
		情報処理入門	1後		2			○							兼1	
		自然災害と暮らし	1後		2		○								兼1	
		人工知能概論	2前		2		○								兼1	
		農業経営経済学	3前		2		○								兼1	
		総合農学実習	2前		1				○	1						
		小計（10科目）	—	6	11	0	−			1	0	0	0	0	兼7	
	自然科学関連科目	基礎生物学	1前		2		○								兼1	
		基礎化学	1後		2		○								兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0	−			0	0	0	0	0	兼2	
	学科基礎科目	植物の形態と機能	1前		2		○				1					
		園芸学の基礎	1前		2		○					1				
		土と肥料	1後		2		○			1						
		果物の科学	1後		2		○					1				
		昆虫生物学	1後		2		○			1						
		植物の生態	2前		2		○			1						
		植物の遺伝	2前		2		○					1				
		作物の生産	2前		2		○			1						
		植物病理学	2前		2		○								兼1	
		農学実習Ａ	2休	1					○	4	1	3				集中
		小計（10科目）	—	1	18	0	−			4	1	3	0	0	兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅳ主専攻科目	学科応用科目	農学実習Ｂ	2前	2					○	4	1	3			
		農学実習Ｃ	2後	2					○	4	1	3			
		農学実験１	2前	2					○	4	1	3			
		農学実験２	2後	2					○	4	1	3			
		農学特別実験実習１	3前	2					○	4	1	3			
		農学特別実験実習２	3後	2					○	4	1	3			
		作物学	2前		2		○			1					
		果樹園芸学	2前		2		○					1			
		応用昆虫学	2前		2		○			1					
		蔬菜花卉園芸学	2後		2		○					1			
		植物育種学	2後		2		○					1			
		環境緑地学	2後		2		○			1					
		作物生産生理学	2後		2		○			1					
		植物バイオテクノロジー	2後		2		○				1				
		植物病原学	2後		2		○								兼1
		小計（15科目）	—	12	18	0	−			4	1	3	0	0	兼1
	学科総合科目	農学英語講読Ａ	3後		2		○			4	1	3			
		農学英語講読Ｂ	4前		2		○			4	1	3			
		卒業研究演習１	4前		2			○		4	1	3			
		卒業研究演習２	4後		2			○		4	1	3			
		卒業研究１	4前	2				○		4	1	3			
		卒業研究２	4後	2				○		4	1	3			
		農産加工実習	3前		1				○	4	1	3			
		小計（7科目）	—	4	9	0	−			4	1	3	0	0	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅳ主専攻科目	教職科目	農業科教育法１	3前		2		○								兼1
		農業科教育法２	3後		2		○								兼1
		職業指導Ａ	4前		2			○							兼1
		職業指導Ｂ	4後		2			○							兼1
		小計（4科目）	—	0	8	0	−			0	0	0	0	0	兼1
合計（58科目）			—	41	68	0	−			4	1	3	0	0	兼13

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：20単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　＜必修科目＞　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目 基礎教養科目　＜必修科目＞　4単位修得 発展教養科目　＜必修科目＞　6単位修得 健康スポーツ科目＜必修科目＞　2単位修得 □科目区分Ⅲ英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目　＜必修科目＞　4単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　76単位修得 ＜必修科目＞ ■学部共通科目に設定された科目を6単位を修得。 ■学科基礎科目に設定された科目を1単位を修得。 ■学科応用科目に設定された科目を12単位を修得。 ■学科総合科目に設定された科目を4単位を修得。 （計23単位） ＜選択科目＞ ■学部共通科目の区分から4単位以上を修得。 ■自然科学関連科目　■学科基礎科目　■学科応用科目 ■学科総合科目　■教職科目 の５つの科目群より、合わせて49単位以上を修得。 （計53単位） □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　応用植物科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
論	Ⅰ現代文明	現代文明論	2後	2			○			1					兼11	
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0	兼11	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前・後	2			○								兼2	
		社会科学	1前・後	2			○								兼3	
		自然科学	1前・後	2			○								兼4	
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼9	
	発展教養科目	シティズンシップ	1前・後	1			○					3			兼8	
		ボランティア	1前・後	1			○					3			兼8	
		地域理解	1前・後	1			○					3			兼7	
		国際理解	1前・後	1			○					3			兼7	
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	3	0	0	兼8	
	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	1前・後	1					○						兼3	
		生涯スポーツ理論実習	1前・後	1					○						兼3	
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	1前・後	2					○						兼4	
		英語リーディング＆ライティング	1前・後	2					○						兼4	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2前・後	2					○						兼4	
		アカデミック英語	2前・後	2					○						兼4	
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　応用植物科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ主専攻科目	学部共通科目	農学概論	1前	4			○			5	1	3			兼19	
		理系リメディアル	1前		2		○								兼4	
		フレッシュマンセミナー	1前	2			○			5	1	3			兼1	
		情報リテラシー	1前	2				○							兼2	
		生物学実験	1前	1					○						兼2	
		化学実験	1前	1					○						兼2	
		情報スキル	1後		2			○							兼1	
		将来設計と就職１	1後		2		○								兼1	
		将来設計と就職２	2前		2		○								兼1	
		数学	2前		2		○								兼1	
		総合農学実習	2前		1				○	1					兼1	
		物理化学	2後		2		○								兼1	
		農業経営経済学	3前		2		○								兼1	
		生物統計学	3後		2		○								兼1	
		小計（14科目）		10	17	0	－			5	1	3	0	0	兼28	
	自然科学関連科目	基礎生物学	1前		2		○								兼1	
		基礎化学	1前		2		○								兼1	
		小計（2科目）		0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
	応用植物科学基礎	植物の生態	2前		2		○			1						
		土と肥料	1後		2		○			1						
		果物の科学	1後		2		○					1				
		園芸と文化	1後		2		○					1				
		植物の形態と機能	1後		2		○				1					
		昆虫生物学	1後		2		○			1						
		植物の遺伝	2前		2		○					1				
		資源としての植物	2前		2		○			1						
		作物の生産	2前		2		○			1						
		農場実習Ａ	1後	1					○	4	1	3				
		小計（10科目）		1	18	0	－			5	1	3	0	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　応用植物科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅳ主専攻科目	応用植物科学総合	農場実習Ｂ	2前	2					○	5	1	3			
		農場実習Ｃ	2後	2					○	5	1	3			
		応用植物学実験１	2前	2					○	5	1	3			
		応用植物学実験２	2後	2					○	5	1	3			
		応用植物学特別実験・実習１	3前	2					○	5	1	3			
		応用植物学特別実験・実習２	3後	2					○	5	1	3			
		作物学	2前		2		○			1					
		果樹園芸学	2前		2		○					1			
		蔬菜花卉園芸学	2前		2		○					1			
		植物育種学	2後		2		○					1			
		応用昆虫学	2後		2		○			1					
		環境緑地学	2後		2		○			1					
		植物生理生態学	2後		2		○			1					
		生物多様性保全論	2後		2		○			1					
		園芸と福祉	3後		2		○			3	1	3			
		植物バイオテクノロジー	3前		2		○				1				
		インターンシップ	3後		2				○	1					
		外書講読１	3後		2			○		5	1	3			
		外書講読２	4前		2			○		5	1	3			
		小計（19科目）	－	12	26	0	－			5	1	3	0	0	
	卒業論文科目	卒業研究演習１	4前		2			○		5	1	3			
		卒業研究演習２	4後		2			○		5	1	3			
		卒業研究１	4前	4				○		5	1	3			
		卒業研究２	4後	4				○		5	1	3			
		小計（4科目）	－	8	4	0	－			5	1	3	0	0	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（農学部　応用植物科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
Ⅳ主専攻科目	農学関連科目	植物病原微生物学	3後		2		○								兼1	
		草地学	4前		2		○								兼1	
		天然物化学	4前		2		○								兼1	
		食品加工学	4前		2		○								兼1	
		農産加工実習	3前		1				○	4	1	3				
		食の科学	3後		2		○								兼1	
		微生物の生態と分類	4前		2		○								兼1	
		世界の畜産	3後		2		○								兼1	
		動物飼料学	3後		2		○								兼1	
		小計（9科目）	－	0	17	0	－			4	1	3	0	0	兼6	
	教職科目	農業科教育法１	3前		2		○								兼1	
		農業科教育法２	3後		2		○								兼1	
		職業指導	3後		4		○								兼1	
		小計（3科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
合計（75科目）			－	53	94	0	－			5	1	3	0	0	兼57	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（１学期）） □科目区分Ⅰ現代文明論　（必修科目）　2単位修得 □科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目）　12単位修得 □科目区分Ⅲ英語科目　（必修科目）　8単位修得 □科目区分Ⅳ主専攻科目　72単位修得 （必修科目）　31単位修得 （選択科目）　41単位修得 □科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30単位修得 合計124単位修得	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１４週
	１時限の授業時間	１００分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅰ現代文明論		現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
Ⅱ現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールＡ	本授業は１年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「大学での学び方」を学ぶことを目的とし、４年間の計画的な学習スケジュールを構築しつつ、ノートの取り方や情報収集の方法、情報リテラシー、図書館の利用方法といった、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識をまずは養っていく。さらに特定のテーマについて個人の関心に応じた調査・発表といった演習を通じ、学生個別の学問的関心を喚起させ、自分自身が持つ興味や関心を正しく探求し表現していく方法を学ぶ。	
		入門ゼミナールＢ	本授業は１年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「入門ゼミナールＡ」で培った個人的関心から生じた問いを、より公共的・普遍的な問いへ変換させる能力を養うことを目的とする。具体的にはクリティカルリーディング、レポートのまとめ方の学び、グループ演習・発表を通じて、「スキルの向上」を目指すと同時に、所属学科における専門分野の基礎的知識や問題点に対しての取り組み方、倫理観などの育成を通じて、本学が育成を目指す、自ら考え、集い、挑み、成し遂げていく力を身に付けるための学び方と姿勢を醸成していく。	
	発展教養科目	シティズンシップ	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。背景の違いはあっても、共同体に参加する人々のことを市民（シティズン）と呼ぶ。この科目では、「シティズンシップ（市民性）」の観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする。参加型授業を通じ、社会の様残な課題について話し合い、周囲と協同しつつ解決方法を考えることで、社会参加のあり方を学ぶ。	
		地域・国際理解	人は日々、ある地域で様々なひと・もの・ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むために、地域で仲間をつくり、議論し、協同し、基盤となる豊かな地域を持続させていく必要がある。一方、現代の地域社会はグローバル化の波にされされ、遠く離れた地域ともひと・もの・ことを介して緊密に連動するようになっている。この科目では、自らが暮らす地域社会と国際社会の現実を見つめ、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える。さらに、コミュニティにおける自らの役割を認識することを目標とする。	
		現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にされされる一方、気候変動や階級格差など、様々な問題解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きるため、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみ、学ぶ必要がある。この科目は教員自身が現在取り組んでいる研究について講義する。文理融合的な幅広い視野を重視しつつ、現代の新たな研究知見を学び、幅広い知識と視野を養う。	
Ⅱ現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング＆スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング＆ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
Ⅳ主専攻科目	学部共通科目	農学概論Ａ	この科目は、農学という学問を通じて、これからの社会の持続的な発展のために必要な考え方や能力をいかに身に付けていくのかを認識することを目的とした、羅針盤的な位置付けの専門導入科目である。 幅広い分野の学問を応用した総合科学である農学は学びが多岐にわたる。人間社会を取り巻く自然の役割と農学、植物科学、動物科学等について概説し、その多様性や学際性を理解して総合科学としての農学の学びがこれからの自分自身の成長にどのように結びつくのか考える。	
		農学概論Ｂ	この科目は、農学という学問を通じて、これからの社会の持続的な発展のために必要な考え方や能力をいかに身に付けていくのかを認識することを目的とした、羅針盤的な位置付けの専門導入科目である。 「農学概論Ａ」で学んだ内容を受け、農学部３学科の専門内容を紹介する。農学科では安全で安定した食糧確保を目指した新しい技術開発の必要性などについて概説する。動物科学科では環境問題と生物（動物）の多様性維持の重要性、畜産資源を通じた安定的な食料生産を目指す方策などを解説する。食生命科学科で生物資源の開発、新しい食品や有用な成分の開発・応用などについて説明する。	
		情報リテラシー	この科目は、社会やネットワーク上に散在する多様な情報の中から必要な情報を取得し、目的に合わせ処理・活用していくことが必要な超高度情報化社会において、コンピュータやネットワークを「道具」として使いこなせる基礎力を身に付けることを目的とする。 その内容としては、情報処理に必要なソフトウェアの使い方、情報収集におけるインターネットの活用法などを演習を通して習得する。また、ネットワークやソフトウェアを利用する際の倫理について理解し、地域の課題を複合的視点から発見・分析する上での基礎となる情報処理能力の習得を目指す。	
		生物学実験	この科目は、農学部１年次生に対する生物学系の実験入門として設定されており、生物学系の実験や卒業研究へ向けての基礎となる実験操作法、実験データの記録・整理法、レポート作成法の習得を目的とする。 その内容としては、基礎的な生物学実験を通して、１）光学顕微鏡による検鏡手技および細胞や組織のスケッチの描写法、２）顕微鏡下でのサイズの測定法およびコンピューターを利用した統計解析の方法、３）生物の外部形態の肉眼観察や細胞および組織の顕微鏡観察についてそれぞれ学び、生物学全般の基礎的知識の習得を図る。さらにこれらの実験を通じて、生物学実験に対する心構え、器具や試薬の取り扱い方及び科学論文作成の基礎となるレポートの作成法を学んで行く。	
		化学実験	この科目は、農学部１年次生に対する化学系の実験入門として設定されており、化学系実験や卒業研究へ向けての基礎となる実験操作法、実験データの記録・整理法、レポート作成法の習得を目的とする。 その内容としては、基礎的な化学実験を通して、１）実験における化学的原理を理解する、２）実験計画を自ら立案し取り組む、３）分析機器、器具及び化学薬品を適切に取り扱う、４）実験から得られた数値を適切に解析する、５）実験結果をレポートとして客観的にまとめることをそれぞれ系統立て実践し、それらの能力を養成する。	
		情報処理入門	この科目は、コンピュータを用いて可能になる多種多様なデータの処理や解析が専門課程での講義、演習、卒業研究時のみならず、今日の情報社会において必須な手技であることを踏まえ、その基本的な知識と技術を身に付けることを目的とする。 その内容としては、単純集計、度数分布、散布度、クロス集計等の統計データやグラフ、それらの計算や作成方法、質的データの読み方と基本的な整理方法、相関係数など基礎的統計や回帰分析の概念等について学ぶ。特に地域に散在する各種データをコンピュータを用いて分析する演習を通じて、複合的視点から問題点を発見できる基本的な知識とスキルの習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ主専攻科目	学部共通科目	自然災害と暮らし	この科目は、地震や水害など自然がもたらす災害のリスクに配慮した地域社会の構築のために、分野を超えた多角的な考え方と取り組みの基礎能力を養成することを目的としている。 その内容としては、防ぎようのない自然災害からの被害を減じ、レジリエンシーが高く持続的なこれからの暮らし、産業、まちづくりのあり方について考える。特に、熊本地震や多発する水害などの身近な事例を教材に、自然災害がもたらす被害の実態、地域における防災や減災などについて考える。その中で、防災・減災性を高めるための工学技術、柔軟で回復力の高い生産を可能にする農業生産、自助・共助・公助を基盤にした持続的な社会の仕組みなど、これからの私たちの暮らしに欠かせない視点を養う。	
		人工知能概論	この科目は、人間のような「知能」をコンピュータを利用して人工的に実現するための基礎的な知識と能力の習得を目的としている。 その内容として、人工知能とは何かから始め、問題解決、探索、論理、推論、記号論理、意味ネットワーク、オントロジー、フレーム理論、オブジェクト指向、知識の不確実性、機械学習、ニューラルネットワーク、自然言語処理などの基礎知識について、多くの例題で学ぶ。特に、人工知能をビッグデータの処理や、言語理解、問題解決、意思決定などに利用するための基礎的な知識と技術を身に付けることを目指す。	
		農業経営経済学	この科目は、柔軟で幅広い視野でこれからの農業を展開する能力を養うために、農産品の生産から加工流通に関する仕組み並びに国際化の中で農業農村の再生について理解することを目的とする。 その内容としては、日本における農業の高齢化や若者の就業者獲得が困難な状況を引き起こしている社会的背景、並びに日本の農家が抱えている農業の経済的な側面について学び、近年大きく変化している地産地消の考え方や農産物生産から加工、販売までを一貫して行う六次産業化がその打開策になるか実務に基づき解説する。また、日本の農村を取り巻く諸問題と国際化の中の日本の農業の展望について学ぶ。さらに、農業と地方創生の関係や方向性について考える。	
		総合農学実習	この科目は、農業の生産現場並びに農産品の加工や流通現場をフィールドとし、多様な地域の風土と文化と密接に関わりながら発展している農業という地域の基盤となる営みについて実践的に理解することを目的とする。 その内容としては、地域性豊かな農業実践地におけるフィールド実習を基軸にし、１）地域特有の作物・家畜および野生生物を知り、それらの資源利用や保全を理解する、２）地域特有の食文化を知り、その特性や価値を理解する、３）これらのことを地域の風土や歴史と関連付けて理解することを目指し、自ら設定した課題に基づき体験や調査を実践しその内容を考察して報告・討論する。	
	自然科学関連科目	基礎生物学	生物学は、生物を対象に研究する自然科学の一分野であり、農学を学ぶ上での重要な基礎学問分野であることも踏まえ、生物の共通性と多様性について基礎知識を習得することを目的とする。 その内容としては、まず生物に共通する細胞の構造と機能を取り上げ、エネルギーの獲得や増殖など細胞が行う基本的な活動について解説する。次いで、動物と植物について、生物学的観点からそれぞれの特徴について解説し、生物の共通性並びに動物と植物の違いについての基礎知識を習得する。	
		基礎化学	化学は、物質についての自然科学の一部門であり、農学を学ぶ上での重要な基礎学問分野であることも踏まえ、「物質」に対する正しい知識を習得し、化学の基礎を確実に身に付けることを目標とする。 その内容としては、モルの概念、原子とその構造、分子の構造、化学結合、反応速度と化学平衡、酸・塩基など、高校化学の学習内容に配慮しながら、専門課程で必要となる基礎的項目について講義を進めていく。その中で、これから学ぶ農学での基礎力を身に付けると共に、現代の諸問題を認識・理解し、解決に向かって努力するうえでどのように取り組むべきか適正に判断するための知識を身に付ける。	
	学科基礎科目	植物の形態と機能	この科目は、植物体の基本的な組織構造及びその機能を理解することで、この後に修得する本学科開講科目の理解が容易となるような基礎点な内容の理解を目的とした、導入的な役割を果たす科目である。 様々に変化した植物の形態、それに応じた機能を有する植物を利用した生活を送る上で、また、植物の生産に関わる生理・栽培・遺伝的改良に関連する講義を受けるために、植物の形態的特徴とその機能を把握することは重要となる。 内容として、植物を構成する根、茎、葉、花、種子に大別し、各器官の形態的特徴を説明するとともに、各器官が果たす機能と、その形態との関係性、さらに作物として栽培化されている植物種における特長について論じる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ 主 専 攻 科 目	学 科 基 礎 科 目	園芸学の基礎	この科目は、園芸学分野の導入科目である。園芸学分野で学ぶ上で必要となる専門用語や栽培や生産および育種関連の基礎知識の習得を目的としている。 内容としては、園芸作物（野菜、花、果樹）の起源や分類や、形態、成長、機能性内容成分、収穫後生理などについて解説していく。さらにそれらの基礎的知識をもとに実際の栽培法や、環境制御技術、育種の動向などの概要を講義する。また、園芸学分野における分子生物学の利用などについても解説する。	
		土と肥料	この科目は、作物生産において重要な土壌と植物の栄養分についての理解を深め、肥料の基本的な使用法についての知識を習得することを目的とする。 その内容としては、土壌の組成や種類、植物の必須栄養素をはじめとする各元素の役割や欠乏症・過剰症、化学肥料・有機肥料や土壌改良材の種類や使用方法、土壌環境に起因するストレスとその対処方法、土壌微生物・根圏微生物の種類と役割について学び、作物生産における施肥設計や、作物に障害が生じた場合の対処方法などの、自ら考える力を身に付ける。	
		果物の科学	この科目は、現代人に不足しがちな栄養成分に富んでおり、さらには健康を維持するための多様な機能性成分を含んでいる果物について基礎的知識を養い、当該分野の応用学問を学ぶ能力を身に付けることを目的とする。 その内容としては、果樹による果実生産と利用に関する科学・学問分野である「果樹園芸学」の導入科目として、主要な果樹の概要、基礎的な栽培技術・流通方法及び果物の食品として果たす役割に関して、品目ごとに易しく解りやすく解説する。また、生命科学的な基礎知識だけではなく、来歴や消費者として興味の深い栄養成分について解説する。	
		昆虫生物学	この科目は、それぞれに特異な進化を遂げ今日の生物社会を形成している生物について、長い年月をかけ環境に適応して形態的、生態的、生理的な違いを生じさせつつ多様な種に分化してきた。地球上の動物種の70%を占める昆虫は、地球環境に最も適応しつつ進化してきたグループである。 本講義では、進化論的視点から昆虫の環境への適応力、絶滅の機構などについて学ぶとともに、形態学、分類学、生態学、生理学、遺伝学など農学を学んでいくために必要な基礎知識を習得していくことを目的としている。	
		植物の生態	この科目は、生態学分野の基礎を身に付けることを目的にしている。 内容として、地球規模での環境問題、自然保護が叫ばれている今日、緑に包まれた地球は、現在未曾有の危機にさらされている中で、どの様にして地球上で生命が誕生し種への分化が生じたのか、また、地球上の生物はどの様に相互に助け合い、競争しあっているのか、生物はどのように環境に制約されながら、環境に適応しながら繁栄と滅亡の歴史を刻んできたのかについて解説する。植物は、一度その場所に根をおろすと、移動することなく生き続ける。そのために、進化の過程で遺伝子を多様化させ、また多くの遺伝子を同一個体に共存させる許容性をもつことで、厳しい環境にも高く順応できるようになった。このような環境適応のためのメカニズムと、それがもたらす植物の生態について論じる。	
		植物の遺伝	この科目は、植物の品種改良を行うための基礎的な遺伝学の知識の習得を目標としている。 内容としては、人口の急増と環境の急変に直面する現代において、植物の品種改良による生産性の向上は喫緊の課題となっている。従来型の植物育種法だけでなく、近年のバイオテクノロジーを駆使する様々な品種改良法も、メンデルによって発見された遺伝理論が基礎になっている。そのため、本講義では、遺伝理論を理解するための植物の受精やメンデルの遺伝の法則、遺伝子DNAや染色体の構造と働き、植物のゲノム、連鎖および倍数性などについて解説する。	
		作物の生産	この科目は、作物学分野の基礎を身に付けることを目的にしている。 内容としては、コムギ、ダイズ、雑穀といった食用作物に焦点を絞り、作物の特徴（分類、起源・歴史、生産状況、形態、生理、品質、品種改良）と栽培の基礎（畑土壌の特徴、肥料、砂耕栽培、水耕栽培、乾燥地での栽培、灌水方法）を習得する。これらを基礎として、生産性を論理的に評価するための成長解析と収量解析を解説する。さらに、地球規模で問題となっている温暖化と作物生産との関係や目まぐるしく変化する世界情勢の中で、日本で課題とされている食料自給率について深く理解し、今後の作物生産のあり方から消費者としてのあるべき姿について自分の意見を展開できることを目標とする。以上の内容を通じて、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsと作物生産の関連を考察できる人材を育成することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ主専攻科目	学科基礎科目	植物病理学	この科目は、植物栽培の環境科学分野において、植物と病原微生物との関わりを理解することを目的としている。したがって、本授業では“植物の病気”という自然現象の因果関係の解明において、植物の健康と生産性についての植物病理学の基礎知識を解説する。すなわち、病害防除の前段である病的現象の解明には、病気に関与する微生物およびウイルス性病原体等の病原を知り、それらによる病気の発生環境を明らかにし、その流行機構、被害の解明が必要になる。 内容としては、植物病害の意義、病徴および病原体の概略、感染要因と発病、病原体の証明、病気の診断、病原性と抵抗性、病気の伝染、さらに植物病理学におけるバイオサイエンス、並びに病害防除法についても講述する。	
		農学実習Ａ	この科目は、講義で学んだ理論を基礎として、「農学実習Ａ・Ｂ・Ｃ」を通して作物の生産過程を幅広く習得することを目指し、栽培管理ならびに農学研究の基礎となる栽培方法を体得することを目的とする実習科目である。 内容として、季節に合った作物の栽培管理を体験するとともに、使用する農業資材、器具等を理解する。作物見本園、果樹作（落葉果樹）、露地畑作（ジャガイモ、野菜類）、施設園芸（果菜類と花卉、花木、ハーブ類）など、この時期に実施すべき栽培管理方法を体得する。	
	学科応用科目	農学実習Ｂ	この科目は、講義で学んだ理論を基礎として、「農学実習Ａ・Ｂ・Ｃ」を通して作物の生産過程を幅広く習得するために、「農場実習Ａ」の内容を踏まえ、さらに、作物が順調に生育するための施肥、播種、移植、剪定、摘花、摘果、雑草管理、病害虫の防除、潅水などの様々な管理作業の体験を目的とした実習科目である。 内容としては、作物見本園、水田作（水稲の播種・田植え・除草）、果樹作（ブドウ、ブルーベリー、リンゴ、スモモ）、露地畑作（ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、野菜類）、施設園芸（果菜類と花卉、ハーブ類）などについて実施すべき栽培管理と収穫方法を体得する。また、受講生の責任によって、各種畑作物および水稲の生育調査を実施するとともに、栽培管理を行うプロジェクト学習を実施する。	
		農学実習Ｃ	この科目は、講義で学んだ理論を基礎として、「農学実習Ａ・Ｂ・Ｃ」を通して、作物の生産過程を幅広く習得するために、「農場実習Ａ・Ｂ」の内容を踏まえ、様々な管理作業を適期に行い、この実習体験を通じて、地域における農業の実情を理解するとともに、農学研究の基礎となる栽培方法を体得することを目的とした実習科目である。 内容として、作物見本園、水田作（水稲の管理・収穫）、果樹作（ブドウ、ブルーベリー、リンゴ）、露地畑作（ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ、野菜類）、施設園芸（果菜類と花卉、花木、ハーブ類）などについて実施すべき栽培管理と収穫方法を体得する。また本科目でも、各種畑作物及び水稲の生育調査を実施するとともに、栽培管理を行うプロジェクト学習を実施する。さらにキャンパスでは経験できない柑橘類について、熊本県果樹研究所の見学を実施する。	
		農学実験１	この科目は、農学科のすべての科目の基礎として、微生物、植物を対象に、研究手法を習得することを目的としている。 土壌化学、植物形態学、植物育種学、植物分子遺伝学、植物生態学、種苗生産学分野の実験計画・実験手法・結果の解析方法など様々な分野の理論を理解し、多岐にわたる手法を習得する。さらに、実験で得られた結果を解析して、目的が達成できたかどうかを論理的に説明する文書でまとめてレポートを作成する。レポートの作成にあたっては、研究倫理に違反することのないようポイントを説明し、次年度からの研究室での活動のための重要な導入科目として位置付ける。	
		農学実験２	この科目は、農学科のすべての科目の基礎として、昆虫を対象に、研究手法を習得することを目的としている。 昆虫形態学分野の実験計画・実験手法・結果の解析方法など様々な分野の理論を理解し、多岐にわたる手法を習得する。さらに、実験で得られた結果を解析して、目的が達成できたかどうかを論理的に説明する文書でまとめてレポートを作成する。レポートの作成にあたっては、研究倫理に違反することのないようポイントを説明し、次年度からの研究室での活動のための重要な導入科目として位置付ける。	
		農学特別実験実習１	卒業研究を遂行するためには、実験材料である植物を目的に応じて育てることが必要である。従って、屋内の学習にとどまらず植物の繁殖・管理の基本を習得する。また、害虫管理学の基礎となる昆虫などの節足動物の形態理解や害虫の防除法についても学習する。特に①植物の繁殖方法に関する実験・実習、②植物の栽培管理に関する実験・実習、③植物の調査に関する実験・実習、④昆虫を含む節足動物の形態理解や害虫の防除法に関する実験を通じて卒論研究に関わる基礎的な実験・実習を行い基礎的な知識を補完し専門技術を習得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ 主 専 攻 科 目	学 科 応 用 科 目	農学特別実験実習２	「農学特別実験実習１」で習得した基礎的実験法、調査法を更に深めるため、植物の組織学的、生理学的な実験及び節足動物の生態理解、天敵生物の利用法に関する次の実験を行う。①植物の細胞組織学に関する実験、②植物の生理学に関する実験、③植物の組織培養に関する実験、④節足動物の生態理解、天敵の利用法に関する実験。これらの実験を通じて卒論研究に関わる基礎的な実験・実習を行い基礎的な知識を補完し専門技術を習得する。	
		作物学	この科目は、食用作物を主要な対象として、作物が持つ植物としての特性を、生産地の自然環境と社会的要因の中で十分に発揮させ、環境を保全しつつ十分な生産量を上げるための基本的な考え方を学ぶことを目的とする。 その内容としては、水稲において、収量構成要素の決定過程という観点から育苗・耕起・施肥・防除などの栽培管理や品種特性について理解を深めるとともに、畑作物においては、連作障害など作付体系全体を考えるために必要な知識を習得する。あわせて、作物の起源や気候・文明との関わりを学び、日本の食料自給率・環境と食の安全に配慮した作物生産といった社会的課題についても考える力を養う。	
		果樹園芸学	この科目は、果樹園芸学の基礎的知識を身に付け、果樹への興味とその栽培や利用などに関する理解を深めることを目的とする。 内容としては、栽培学、地理学、経済学、形態学、生理学、育種学、細胞工学および分子生物学など多岐にわたる分野を基盤にして果樹園芸について総合的に理解する。特に、近年の果実生産において主流である、施設や機械化による集約的な生産体系への移行により、他の作物と比べて複雑となっている栽培体系を学ぶと同時にその栽培上の課題を理解する。併せて、農業生産現場の技術のみならず経営における現状・課題・技術を具体的に学ぶ。	
		応用昆虫学	この科目は、天敵や農薬以外の害虫管理技術をいかに上手く利用して農薬の使用量を抑制できるかについて学ぶ。 本講義では、持続可能で環境に負荷の少ない害虫管理のための総合防除の理論と技術を紹介するとともに、天敵には、どのような種がおり、どのような生態を有しているのか、化学物質と天敵との関係や殺虫剤抵抗性害虫の出現メカニズム、害虫が天敵に対して抵抗性を持たないのはなぜか、生物農薬の種類や利用方法についてふれ、害虫管理に必要な基礎知識を習得することを目標としている。	
		蔬菜花卉園芸学	この科目は、蔬菜や花卉類の形態、栽培、育種に関する基礎から園芸学研究に取り組むために必要な内容までを説明し、農業生産を支える知識を習得することを目的とする。 内容としては、蔬菜や花卉の繁殖、育苗、病害虫対策、肥料、農薬の種類、その他の栽培技術について講義する。また、作物には、種子低温感応型、緑植物低温感応型など低温によって花芽を分化するもの、短日や長日など日長条件によって花芽を分化するものなどがあることを講義し、それらのことを踏まえて葉根菜類では花芽を分化させないための育種や栽培技術など作型の確立によって主要作物では周年栽培が行われていることを講義する。	
		植物育種学	この科目は、植物の品種改良によって、より付加価値の高い品種や生産性の高い植物種を創り出すための理論と技術について、体系的に学習することを目標としている。 内容としては、植物の品種改良に重要となる植物の生殖様式や遺伝的特性について学び、従来型の育種（種間や属間の交配、突然変異や倍数性、栄養繁殖植物の利用など）についての理解を深める。さらに、様々なバイオテクノロジーの育種への応用や、近年、急速に進歩する遺伝子組み換えやゲノム編集などの分子遺伝学的手法を用いた育種についても解説する。	
		環境緑地学	この科目は、人の活動による環境への負荷、地球規模での温暖化、熱帯雨林の破壊、砂漠化の進行、酸性雨による森林の消失、水・土・大気の汚染など、環境問題の課題解決を実現するために、緑化の目的やその本質を理解するための応用分野の専門科目である。 内容として、緑化に利用される植物をはじめとする自然と都市の景観を植物の形・性質の基礎を踏まえて解説する。また日本をはじめ世界各地の風土をどのように活かし、うるおいや安らぎある生活環境を創出するために植物の基本性質を学びつつ、自然の保全と緑化のあり方を論述する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ主専攻科目	学科応用科目	作物生産生理学	この科目は、作物学分野の基礎を身に付けることを目的にしている。 内容としては、作物の一生の中で、発芽、出芽、分化、成長、花芽形成、老化など食用作物の生産性を高めるためのポイントについて焦点を絞り、解説する。生産性を高めるためには、個体や群落としての生産機構を解析する必要があり、そのためには、葉、茎、根、穂といった器官における生理機構を理解する必要がある。これらの器官で起こる特有の生理作用には、植物ホルモンも関与していることから、オーキシンやサイトカイニンを中心とする植物ホルモンについても解説する。これらを基礎として、植物の根の周囲で起こる乾燥、高塩濃度、加湿に対する作物の成長戦略について学ぶ。さらに、地球規模で進行する砂漠化地域における食用作物生産の挑戦や、宇宙農業についても触れ、地球の未来に責任を持つ人材の育成を目標とする。	
		植物バイオテクノロジー	この科目は、これまでに学習した内容を踏まえ、栽培植物種のどの器官をどのように改良するか、あるいはどのような形質の付与を考え、実際にその検出をどう図るかなど、実用化に向けた育種展開を自ら計画できるような応用力の育成を目的とした専門科目である。 内容として、組織の一部があれば完全な植物体形成が可能であるという、植物に特異的な「分化全能性」を利用することで確立された、植物バイオテクノロジーと呼ばれる一連の技術の発展と利用を論じる。これらの手法では、有性生殖を経由しない遺伝子・細胞レベルでの遺伝的な改良が可能となるため、育種において新たな展開が可能であり、近年これらの手法による新品種の育成も行われている。具体的には、細胞融合、遺伝組換え、ゲノム編集等の細胞工学的手法による育種法について論述するとともに、これらの手法で改良した植物体におけるDNAレベルでの分析法に対する解説を加える。	
		植物病原学	この科目は、植物の栽培環境において発生する病気について、植物病理学で得た知識に加え、特にその原因となる病原微生物についての分類学及び生理・生態学的観点からの理解を深めることを目指している。 よって、病原体として特に重要な生物性病原である菌類と細菌について、その分類と同定、病気の発生と生理的・生態的性質との関係を解説する。さらに、それらの主要作物の病害に関しては、具体例を挙げながら病原微生物の生活環に基づく発病生態と伝染環について詳細に講述するとともに、現在の病害防除技術についても言及する。	
	学科総合科目	農学英語講読Ａ	この科目は、それぞれの研究分野における外国語専門書および外国文献を講読することにより、専門的な用語を理解し、文章を解読する能力を養うことを目的としている。また、卒業研究を遂行するために、参考文献の検索方法や引用する際に必要な書式などについても指導する。さらに、海外との技術交流や技術援助に対応できる語学能力を身に付けることにより、国際的視野を養う。 その内容は、専攻した研究室で指導教員の指導のもとに、専門の農学分野あるいは関連する植物学・昆虫学の英語の専門書や論文などを読み、理解した内容を発表する。	
		農学英語講読Ｂ	この科目は、「農学英語講読Ａ」に続いて、さらに新しい外国語の専門図書や文献を講読することにより、専門分野における世界的レベルでの先進的な知識を習得することを目的とする。また、卒業研究を論文に取りまとめるための参考文献の読解能力を高め、あわせて学術論文の構成についても指導する。さらに、卒業後の海外との交流に際して必要な専門的語学能力を身に付けることも、この講義の目的である。 その内容は、専攻した研究室で指導教員の指導のもとに、専門の農学分野あるいは関連する植物学・昆虫学の英語の専門書や論文などを読み、理解した内容を発表する。	
		卒業研究演習１	この科目は、卒業論文を完成し、プレゼンテーションを行うために必要な事項を習得することを目的としている。 内容としては、「農学特別実験実習１」及び「農学特別実験実習２」で得られた、各研究室でグループあるいは各自が得た実験や調査によって得られたデータを解析し、卒業論文としてまとめるための図表の作成や統計処理の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。	
		卒業研究演習２	この科目は、卒業論文を完成し、プレゼンテーションを行うために必要な事項を習得することを目的としている。 内容としては、「卒業研究演習１」で学んだ演習技術や能力をさらに向上させるため、「卒業研究演習１」において得られたデータを解析し、卒業論文としてまとめるための図表の作成や統計処理の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（農学部　農学科）

科目区分	学科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ主専攻科目	学科総合科目	卒業研究１	この科目は、専攻した研究室で、担当教員の指導のもとに研究テーマを選定し、卒業論文をまとめるために、研究目的に基づいた実験・実習を行いつつ、国内外の文献を検索し、各自が実施する研究の背景を認識し、さらに実験・調査等を通じて分析方法を習得し、論文を作成するための技術と知識を身に付けることを目的としている。 内容は、①作物学、②果樹園芸学、③蔬菜花卉園芸学、④植物育種学、⑤植物環境科学、⑥天敵生態学、⑦植物分子遺伝学、⑧植物遺伝資源学、⑨植物生理生態学の各研究室の専門分野に沿って実施される。	
		卒業研究２	この科目は、１）専攻した研究室で、担当教員の指導のもとに研究テーマを選定し、卒業論文をまとめるために実験・実習を規則正しく行うこと、また、２）卒業論文をまとめるに当たり、国内外の文献を検索し、各自が実施する研究の背景を認識し、さらに実験・調査等を通じて分析方法を習得し、最終的に論文としてまとめる能力を養うことを目的としている。 内容は、①作物学、②果樹園芸学、③蔬菜花卉園芸学、④植物育種学、⑤植物環境科学、⑥天敵生態学、⑦植物分子遺伝学、⑧植物遺伝資源学、⑨植物生理生態学の各研究室の専門分野に沿って実施される。	
		農産加工実習	この科目では、生産された農産物をより有効利用するためには、農産加工が施されることが多い、そのような社会のニーズに応えるため、農場実習で生産した農産物などを利用した加工技術を習得する必要がある。 農産加工実習では農作物（穀類、豆類、いも類、野菜、果実、茶など）の加工、貯蔵の原理と応用を習得する。実際の実習では、漬物、ブルーベリージャム、味噌、ゴーダチーズ、こんにゃくなどを試作しその製品を評価する。	
	教職科目	農業科教育法１	この科目は、高等学校の教科「農業」における教科教育に必要な知識の習得並びに能力の養成を目的とする。 その内容としては、まず日本農業の現況と世界の中での日本農業の置かれている立場を理解させ、学習指導要領（農業編）に基づいて、これからの農業教育や農業高校の果たす役割を学ぶ。次に、現行の農業教育の進め方は課題を見出し、その課題解決に向け、各教科の中で創意工夫しながら客観的・理論的に課題を解決し、発表する力を養成するために、現行学習指導要領のもと、農業高校で使用されている教科書や関係図書を参考に講義（基礎的知識の習得）を進める。さらに、授業テーマに沿った課題を毎回設定し、講義とともに、小グループ単位で課題解決に向けた討論（自ら考える力）も取り入れながら、受講生が授業に能動的に参加し、農業科教師としての力量（倫理観や教科指導力）が身に付くよう指導していく。	
		農業科教育法２	この科目は、高等学校の教科「農業」における教科教育に必要な知識の習得並びに能力の養成を目的とする。 その内容としては、現学習指導要領の下、農業科目の教科書を使用した学習指導案作成に基づく模擬授業を実践することを中心とする。この模擬授業においては、授業者以外の学生は授業を受ける生徒の役割を担い、質問を通じて授業者の実践力向上に寄与するとともに、自分自身のコミュニケーション能力の向上を図る手立てとする。さらに、模擬授業後を踏まえたそれぞれの立場から作成された報告書を基に討論を進める。これらを通じて、農業に関する知識・技術の習得に努め指導力の向上を目指す心構えが必要かつ大切であることを学ぶとともに、授業実践力の基礎として生徒指導ができることなど、教師としての資質向上に必要な要素を学ぶ。	
		職業指導Ａ	この科目は、高等学校の教科「農業」の教員として職業世界に移行していく生徒に適切な指導を担うため、その知識の習得や能力の醸成を養うことを目的としている。 職業指導（進路指導）とは、生徒自らが進路に対し主体的に取り組み、「将来の進路」を選択、決定できるように指導・助言するものである。進路指導は、生涯にわたる自己実現のために、「自分に何ができるか」「自分には何が向いているか」「職業とは何か」を生徒によく理解させるとともに、自己の進路に対して興味・関心を持たせることが重要であり、学校教育では不可欠な分野である。	
		職業指導Ｂ	この科目は、高等学校の教科「農業」の教員として職業世界に移行していく生徒に適切な指導を担うため、その知識の習得や能力の醸成を養うことを目的としている。 「職業指導Ａ」の内容を受け、１）職業と社会に関する基礎的知識を習得し、２）職業に関する原理的諸問題を把握し、３）現代の青年の価値観と職業観を理解し、４）職業指導の課題を踏まえ、職業指導の基礎力を身に付けることが基軸となる。さらにこれらの学びで習得した力を基に、高等学校の教育現場で求められる職業指導のあり方とその効果的な実践法について探求する。	

（位置関係図）

東海大学　九州キャンパス

熊本県　熊本市東区
熊本県　上益城郡益城町

東海大学　熊本校舎

熊本県熊本市東区渡鹿九丁目1番1号

東海大学　臨空校舎

熊本県上益城郡益城町杉堂

図面－5

参照地図：Googleマップ

（最寄り駅　経路図）電車

東海大学　熊本校舎

JR豊肥本線「東海学園前」駅　下車
徒歩　　0分
距離　　0m

図面－6

参照図面：Googleマップ

（最寄り駅　経路図）バス

東海大学　臨空校舎

産交バスたかもり号「高遊」　下車
徒歩　10分
距離　800ｍ

図面－7

参照図面：Googleマップ

（最寄り駅　経路図）電車

東海大学　臨空校舎

JR豊肥本線「大津」駅　下車
大学バス　15分
距離　8.1km

JR豊肥本線「大津」駅　下車
徒歩　100分
距離　8.1km

図面－8

参照図面：Googleマップ

設置の趣旨等を記載した書類
農学部農学科

【本文目次】

１　設置の趣旨及び必要性…p. 2
２　学部・学科等の特色…p. 4
３　学部・学科等の名称及び学位の名称…p. 5
４　教育課程の編成の考え方及び特色…p. 5
５　教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p. 9
６　実習の具体的計画…p. 12
７　取得可能な資格…p. 13
８　入学者選抜の概要…p. 13
９　教員組織の編成の考え方及び特色…p. 15
１０　施設・設備等の整備計画…p. 16
１１　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画…p. 18
１２　管理運営…p. 18
１３　自己点検・評価…p. 19
１４　情報の公表…p. 19
１５　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 23
１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 24

１　設置の趣旨及び必要性

１．東海大学の 2022 年度改組改編

東海大学では、建学 80 周年にあたる 2022 年４月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国５キャンパス８校舎 23 学部 62 学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学科構成を目指し、湘南校舎（神奈川県平塚市）に次の学部学科を新設する。

児童教育学部（児童教育学科）を新設する。

情報理工学部に情報メディア学科を新設する。

建築都市学部（建築学科、土木工学科）を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部（児童教育学科）の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）で行う。

②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎（東京都港区）に次の学部学科を新設する。

経営学部（経営学科）を新設する。

国際学部（国際学科）を新設する。

情報通信学部に情報通信学科を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部のさらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎（静岡県静岡市）に次の学部学科を新設する。

海洋学部に海洋理工学科（海洋理工学専攻、航海学専攻）を新設する。

人文学部（人文学科）を新設する。

④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、文

理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部のさらなる充実を図るため、熊本校舎（熊本県熊本市）において、文理融合学部（経営学科、地域社会学科、人間情報工学科）を新設し、臨空校舎（熊本県上益城郡）において、農学部に農学科、動物科学科、食生命科学科を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

２．農学部農学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

１）農学部の教育研究上の目的・養成する人材

人口増加と食料問題、生態系との不調和な活動がもたらす様々な問題、飛躍的に進歩を遂げる科学技術と農業への応用、さらにそれらにかかわる諸問題等、人類の存続にかかわるこれらの大きな課題が現代社会には山積している。これらの課題に対し、文理融合的な柔軟で幅広い視野と農学専門分野の深い知識を持って、地域に根付く伝統的な知恵を見出すことに加え、グローバルな最新の知識・技術を応用し、社会の持続的発展に貢献する姿勢を育むことを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、食料の生産と利用、生命の仕組みの理解、生態系との調和への探究等について、それらの理論ばかりでなく、「活用する実践的技術」や「応用して問題を解決できる能力」を身に付け、わが国だけではなく世界の持続的発展に「食の重要性」と「生命の尊さ」をもって貢献できる人材の養成を目指す。

２）農学科設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

科学技術の進展、超少子高齢社会の到来、地球環境の変化や想定を超えた災害等、現代社会は未来に向かって今までの考え方では対応が困難なほどの変化の時期を迎えている。農学科では、「現代文明論」を中心とした教養教育を基に幅広い知識と複眼的な視点を養うとともに、「学部共通科目」において広範な視点で農学全体を俯瞰し、これからの社会における農学の意義を理解する。「学科基礎科目」において農学における幅広い分野での問題解決に対応できる基礎知識を身に付け、「学科応用科目」において先端技術を応用し、農業をとりまく諸問題に対して実践的な対処・解決の方策を導き出せる専門知識と能力を修得していくことを目指す。さらに、「学科総合科目」を通じて人間社会とそれを取り巻く自然の役割や植物の持つ多様な価値を深く理解し、国際的視野に基づき、継続的に解決に向かうことができる自らの考えと創造性を持って、自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力を養成する教育を行う。

こうした目標のもと、農学科においては、実験・実習を通じて直接植物に触れ、地域の自然や農業に接する体験型の教育を通して、「地域の持続的発展に貢献するための食料生産に関する専門的知識を実践的に身に付けていくこと」に加え、刻々と変化していく社会に対して「確固たる自然観や生命観を有し、揺るぎなく進むべき道筋を見出す創造性」、「自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力」を身に付けた豊かな人材を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

農学部農学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（農学）」を授与する。

『知識・理解』

農学を通じて食糧生産、生命、環境についての科学的な基礎知識と自然と人とのかかわりについて人文社会的な基礎知識をもち、確固たる自然観・生命観を基に、食料生産を向上させるために必要とされる、作物の特徴や栽培管理について幅広い知識を持っている。さらに、天敵昆虫等の有用生物も活用した有機農業や環境保全型農業等、環境に大きな負荷をかけない農業の特徴や課題を学び、持続可能な農業の必要性について理解する。

『汎用的技能』

地球規模での食料危機や生物多様性の喪失に対応するために、環境ストレスに対する作物反応の解明と得られた知見の活用、未利用生物資源の探索とその有効活用、バイオテクノロジーやＤＮＡ分析を活用した品種改良等、先端技術を応用し、農業をとりまく諸問題に対して実践的な対処・解決の方策を導き出せる。

『態度・志向性』

複眼的な視点を持ち、人間社会とそれを取り巻く自然の役割や植物の持つ多様な価値を深く理解し、自らの考えと創造性を持って、自然環境の保全や人類の未来に関して、国際的視野を持った責任ある社会貢献を継続できる。

【具体的な人材像】

・広い視野と優れた技能を持ち地域のリーダーとなる農業生産者
・地域貢献への意欲と専門的知識・技能を持つ農業高校教員

３．研究対象とする中心的な学問分野

安全で安定した食料増産のためには、作物、果樹、野菜、花等の栽培法の改善や生理生態の理解を深めるとともに、農薬や化学肥料に過度に依存しないよう、天敵昆虫を用いて害虫の駆除を行う生物的防除技術等、環境を重視した技術の開発が必要である。さらに、地球的規模での食料危機に対応できるように、植物バイオテクノロジーの先端技術を用いた品種改良を行い、未利用植物資源を活用することが求められる。加えて、自然環境の保全のために、森林や草原等の緑地の果たす役割や、植物の持つ多様な価値を明らかにし、人間の生活環境の向上に役立てていくことが重要である。

２　学部・学科等の特色

農学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成 17 年１月）」で提言された大学の７種の機能のうちの、「社会貢献機能」を目指す学部であり、文理融合的な柔軟で幅広い視野と農学専門分野の深い知識を持って、地域社会の持続的発展に貢献する姿勢と専門的素養を身に付けた人材を養成する。

その中で農学科では、地域の持続的発展に貢献するための食料生産に関する専門的知識の習得を基盤としつつ、農業をとりまく諸問題に対して実践的な対処・解決の方策を導き出せ

る専門知識と能力を培うことを目指す。そのために、実験・実習を通じて直接作物や土壌に触れる教育や、地域の自然や農業に接する体験型の教育を通して、自然の役割や植物の持つ多様な価値を深く理解し、責任ある社会貢献を継続できる能力を養成する。あわせて、植物バイオテクノロジーの先端技術を用いた品種改良や病害防除、国際的視野での作物生産の諸問題を学ぶ。

３　学部・学科等の名称及び学位の名称

１．学科の名称

農学科では、農業をとりまく諸問題に対して実践的な対処・解決の方策を導き出せる専門知識と能力を持つ人材の育成を目指している。「農学」は、かつては食料の大量生産を主目的とした学問分野であったが、今日においては、社会の変化に対応し環境を保全しつつ、生命科学の先端技術も取り入れて広くＱＯＬにかかわる農産物の生産を担う新しい総合的学問分野となっている。このため学科の名称「農学科」は、農学科の教育を示すのに最適な名称である。

２．学位の名称

農学部において、学位は専門領域を広くカバーできる人材であることをアピールすることが肝要である。食品関連産業界に受入れやすく、国際的にもごく普通に受入れられる名称であることが重要である。こうした背景の下に農学部を構成する３学科の学位の名称を「学士（農学)」としている。

【日本語名称】

学部名称　：農学部
学科名称　：農学科
学位名称　：学士（農学）

【英訳名称】

農学部　　：Undergraduate School of Agriculture
農学科　　：Department of Agriculture
学士（農学）：Bachelor of Agriculture

４　教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

農学部農学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

農学科では、専門学修へ円滑な橋渡しを行うため「学部共通科目」を通じて、学部や学科の教育課程や学術研究に対する理解、キャリア意識の形成、実験科学の基礎の修得、情報に関するリテラシーの養成、農学的視野の拡大と農学的基礎知識や技術を応用する力の養成を意図しています。あわせて「入門ゼミナールＡ・Ｂ」で、大学での専門学習に向けた基本姿勢と基本技術を学び、クラスの仲間との集い力を培う。

その上で、教育分野として食用作物・園芸作物の特性や栽培、遺伝育種学や病害虫防除に加えて環境や土壌肥料に関する分野を設け、作物に関する幅広い知識の修得と、環境に大きな負荷をかけない持続可能な農業の必要性についての理解を図る。これらの学問領域については、１年次開講の「自然科学関連科目」を基礎として自然科学的な視点の基礎を育成し、１、２年次では専門科目の導入分野として位置付けられる「学科基礎科目」が開講され、農学における幅広い分野での問題解決に対応できる基礎知識を育成する。さらに、２、３年次では先端の情報を交えながらそれぞれの分野を深く探求できる「学科応用科目」を履修する。また、実学を重視する立場から、「学科基礎科目」及び「学科応用科目」の一環として、土壌、植物及び昆虫を対象とする農学実験・農学実習を履修し、自らの体験を通じて各専門分野の知識や技術をより深く理解し、人間社会を取り巻く自然の役割と植物の持つ多様な価値の理解を進化させ、課題を解決する能力を養成する。特に３年次で履修する「農学特別実験実習１・２」では、研究室ごとの少人数教育で先端の専門的な知識と技能を習得する。

また、３年次及び４年次においては、研究室ごとの少人数教育で「学科総合科目」である「農学英語講読Ａ・Ｂ」を履修し、農学分野の英語文献を講読する。

最終年次である４年次では、３年次までに習得した知識や技術を基礎として、１年を通じて「学科総合科目」である卒業研究等に積極的に挑み、課題の設定、目的、材料と方法、結果や考察のとりまとめ等、仲間と切磋琢磨しながら総合力を習得する。最終的には卒業研究の成果を分かりやすく発表するとともに残された課題について、自らの考えを分かりやすく表現できる力を身に付け、卒業後にどのような課題にも対応できる問題解決能力と向上心や協調性を併せ持つ人材の育成に資する人物となるよう教育目標を設定している。

なお、教員免許状の取得を目指す学生は「教職科目」も履修する。

『学修成果の評価方法』

農学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』、『汎用的技能』、『態度・志向性』に関して、修得単位数・ＧＰＡによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、ＦＤ活動等をとおして教育の質向上のためのＰＤＣＡサイクルにつなげている。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。【資料１】参照

２．教育課程の構成

１）現代文明論・現代教養科目・英語科目（教養科目）

教養科目として、１年次から２年次にかけ、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語

科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てるとともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

「Ⅰ現代文明論」

幅広い分野の問題点や課題の発見､そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした｢現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

「Ⅱ現代教養科目」

“基礎教養科目”において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールＡ」、「入門ゼミナールＢ」を開講し、“発展教養科目”において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シティズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、“健康スポーツ科目”において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

「Ⅲ英語科目」

“英語コミュニケーション科目”において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につけるため、「英語リスニング＆スピーキング」、「英語リーディング＆ライティング」を開講する。

２．主専攻科目（専門科目）

「学部共通科目」

主に初年次教育として実施する学科目であり、４科目を必修科目として設定する。専門導入科目である「農学概論Ａ・Ｂ」では、農学という学問を通じて社会の持続的な発展のために必要な考え方や能力をいかに身に付けていくのかを認識することを目的としている。また、「生物学実験」及び「化学実験」は実験入門科目として設定しており、農学分野で実施する研究の基盤となる実験操作法、実験データの記録・整理法、レポート作成法を習得することを目的としている。

「農学概論Ａ・Ｂ」において、現在の農業や農学が抱える問題について、各回担当の教員が解説し問題提起する。これは、現代社会の課題を論じて考える「現代文明論」や「発展教養科目」での学びを、より専門に近い農学分野に関連付けて発展させることである。

「自然科学関連科目」

選択科目として２科目があり、専門科目の理解に必要な生物学・化学の基礎を学ぶことを目的としている。

「学科基礎科目」

必修科目の「農学実習Ａ」と９科目の選択科目がある。農学の各分野への導入を目的とした基礎的な科目で、食用作物・園芸作物の特性や栽培、遺伝育種学や病害虫防除、環境や土壌肥料に関する幅広い知識の修得と、環境に大きな負荷をかけない持続可能な農業の必要性についての理解を図る。

農学の各分野の導入科目であり、農業をとりまく社会・経済の課題とも関連の深い科目が多い。「現代文明論」や「現代教養科目：発展教養科目」での学びを、より専門に近い農学分野に関連付けて発展させることになる。

「学科応用科目」

「学科基礎科目」での学びを発展させ、先端の情報を交えて各分野を深く探求する。実学を重視する立場から「農学実験１・２」、「農学実習Ｂ・Ｃ」、「農学特別実験実習１・２」の６科目を必修とし、座学の９科目を選択科目とする。このうち、「農学特別実験実習１・２」では、研究室ごとの少人数教育で先端の専門的な知識と技能を習得する。

この学科目では、自分自身で考えてレポートを書く機会が多くなり、さらに実験・実習科目は、実験で得られた結果を自ら解析して考える場となる。これにより、問題解決の力を向上させる。

専門分野について、「学科基礎科目」以上に詳しく専門的に学ぶと同時に、自分自身で考えてレポートを書く機会が多くなる。さらに実験・実習科目は、実験で得られた結果を自ら解析して考える場となる。これにより、教養科目や、「学部共通科目」及び「学科基礎科目」で培ってきた課題解決の力を更に向上させる。

「学科総合科目」

「農学英語講読Ａ・Ｂ」では、研究室ごとの少人数教育で農学分野の英語文献を読む。英語自体の理解だけではなく、そこ荷書かれた未知の内容や課題を英語で理解し、自ら考える場となる。選択科目であるが、円滑に卒業研究を行うためには、履修が望ましい。

「農産加工実習」、「卒業研究１・２」及び「卒業研究演習１・２」の計５科目から構成される。「農産加工実習」は選択科目であり、農場実習で収穫した作物の加工応用を実技として学ぶ。「卒業研究１・２」の２科目は必修科目であり、１年を通じて卒業研究に積極的に挑み、仲間と切磋琢磨することで、自ら考え、集い、挑みそして成し遂げる４つの力を磨き、問題解決能力と向上心や協調性を併せ持つ人材の育成を目指す。「卒業研究演習１・２」の２科目は選択科目であるが、データの解析方法やプレゼンテーションの技術を学ぶ科目であり、円滑に卒業研究を行うためには、履修が望ましい。

「農学英語講読Ａ・Ｂ」は、「英語コミュニケーション科目」での学びを発展させ、農業分野の専門の文献を英語で読むことで、英語自体の理解だけではなく、そこに書かれた未知の内容や課題を英語で理解し、自分の考えを昇華させていくトレーニングとする。

卒業研究で課題に挑み、仲間と切磋琢磨することで、１年次の教養科目から培ってきた自ら考え、集い、挑みそして成し遂げる４つの力を更に磨き、問題解決能力と向上心や協調性を併せ持つ人材の育成につなげる。

「教職科目」

高等学校教諭一種免許状（農業）の資格を取得するための学科目であり、卒業に必要な単位には取り扱わない自由選択科目とする。教員免許状の取得を目指す場合には、４科目の「教職科目」の修得が必要である。

高等学校教諭一種免許状（農業）の資格取得に向けて、各学期に科目を配置し、履修する年次と学期を指定している。

５　教育方法，履修指導方法及び卒業要件

１．教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目（専門科目）の融合の実現を目指し、１年次から２年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールＡ」、「入門ゼミナールＢ」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる“健康スポーツ科目”や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける“英語コミュニケーション科目”により、主専攻科目（専門科目）への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深化させていく。

以上を礎に、２年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目（専門科目）」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

２．教養科目に基づく専門科目の展開

農学科の学びは、人口増加と食料問題、環境保全等、ＳＤＧｓにもかかわる課題について、文理融合的な柔軟で幅広い視野に立つことを前提としている。このため、「現代文明論」や「現代教養科目：発展教養科目」での学びが、専門科目を学ぶ上での重要な導入科目となる。

加えて、「現代教養科目：基礎教養科目」や「英語科目：英語コミュニケーション科目」は、学び方や課題への取り組み方を修得する上で重要な科目であり、農学科の専門教育の礎となる科目である。また、野外での実習や調査の多い農学科においては、「現代教養科目：健康スポーツ科目」で健全な身体を養うことも、大切な学びの基盤となる。

３．履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を３桁の数字でナンバリングしている。１桁目は履修推奨年次、２桁目は科目群やグループ、３桁目は履修時の条件の有無を表している。これらをカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。

１）学修の進め方

基礎的な学修を進める学科目は低年次に開講し、専門的な内容を含んだ学科目は、基礎科目・応用科目を設定することにより学修を深く進めていく上での順序性を設定し、最終年次の卒業研究を有効に行えるように準備していく。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

「学部共通科目」

基礎的な科目については１年次に開講し、標準的な科目である「人工知能概論」、「総合農学実習」、「農業経営経済学」は基礎的な科目を学んだ後の２年次及び３年次に開講する

「自然科学関連科目」

１年次に選択でき、専門科目の理解に必要な生物学・化学の基礎を学ぶ。

「学科基礎科目」

１年次及び２年次での履修を推奨する科目であり、専門分野への導入を目的としている。

「学科応用科目」

２年次、３年次での履修を推奨する科目で、「学部共通科目」、「基礎教養科目」、「自然科学関連科目」と「学科基礎科目」で習得した知識・技能を発展させ、各分野の先端の情報を交えて深く探求する。

「学科総合科目」

「農学英語講読Ａ・Ｂ」は３年次、４年次において研究室ごとの少人数教育で実施する。３年次で履修する「農産加工実習」と、４年次で履修する「卒業研究１・２」及び「卒業研究演習１・２」の４科目から構成される。

「卒業研究１・２」並びに「卒業研究演習１・２」は、農学応用科目及び専門英語科目での学びを更に発展させて、研究室ごとの少人数教育で実施する。

「教職科目」

高等学校教諭一種免許状（農業）の資格の取得に必要な科目であり、３年次より開講する。

２）卒業要件

以下の合計で 124 単位以上修得する。
（履修科目の登録の上限：20 単位（１学期））

□科目区分Ⅰ現代文明論＜必修科目＞　2 単位修得
□科目区分Ⅱ現代教養科目
　　基礎教養科目＜必修科目＞　4 単位修得
　　発展教養科目＜必修科目＞　6 単位修得
　　健康スポーツ科目＜必修科目＞　2 単位修得
□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目　＜必修科目＞　4 単位修得

□科目区分Ⅳ主専攻科目　76 単位修得

＜必修科目＞
■学部共通科目に設定された科目 6 単位を修得。
■学科基礎科目に設定された科目 1 単位を修得。
■学科応用科目に設定された科目 12 単位を修得。
■学科総合科目に設定された科目 4 単位を修得。
（計 23 単位）

＜選択科目＞
■学部共通科目の区分から 4 単位以上を修得。
■自然科学関連科目　■学科基礎科目　■学科応用科目　■学科総合科目
■教職科目　の５つの科目群より、合わせて 49 単位以上を修得。
（計 53 単位）

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位　30 単位修得

合計 124 単位修得

３）履修モデル

前掲の【具体的な人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。【資料２】参照

４）履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、ＣＡＰ制を設定する。１学期（１セメスター）における履修登録の上限を 20 単位と定めることにより、確実な授業外学習（予習・復習）がなされるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、セメスター期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

５）他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定め

るルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

６　実習の具体的計画

ア　実習の目的

教育実習は、これまでに習得した食料生産、環境、生命についての科学的な基礎知識、自然と人とのかかわりについての人文社会的基礎知識、農学の専門分野における応用的知識並びに教職教養の知識を基礎として、教員が担う教育活動を学校教育の現場で実践的に体得し、適正な教育者精神や態度を身に付けることを目的としている。

具体的には、本実習で教育実践にかかわることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教職者となる上での能力や適性を自ら考え、そこで見出される課題を省察する機会とさせる。さらに、学校教育の実際を体験的かつ総合的に理解し、教育実践並びに教育実践研究を遂行するための基礎的な能力と責任ある態度を獲得させる。

イ　実習先の確保の状況

農学部農学科の「教育実習」について、東海大学付属熊本星翔高等学校より、実習の受入れ承諾を得ている。【資料３】参照

なお、東海大学付属熊本星翔高等学校の学級数は 36 であり、入学定員 10 人に１学級の割合で教育実習校を確保するよう定められている教職課程認定基準を満たしている。

【実習施設一覧】

実習施設名	所在地	受入れ可能人数
東海大学付属熊本星翔高等学校	熊本市東区渡鹿 9-1-1	80 人

ウ　実習先との契約内容

教育実習の契約が必要な場合は単年度ごとに交わすこととし、契約に際しては、教育実習に関する大学側の責任と実習校の責任をそれぞれ明確にする。

エ　実習水準の確保の方策

教育実習担当教員と実習校の指導教員との打合せによる指導に加え、実習校における事前ガイダンスで指示された担当予定の授業内容の事前指導、教育実習担当教員による実習校での研究授業の参観と事後指導を行うことで、教育実習生に対する指導の充実を図り、実習水準の確保につなげる。

オ　実習先との連携体制

本学には教職資格センターが置かれ、教育実習に係る事務手続きを行うとともに、教育実習担当教員と実習校の指導教員との連携をサポートする体制となっている。

カ　実習前の準備状況

大学で取りまとめて保険に加入しており、万一、教育実習中に事故が起きた場合には、必要かつ適切な処置を講じる。

キ　事前・事後における指導計画

事前指導においては、教育実習生に対し、中学校・高等学校管理職又は管理職経験者等による教育実習への指導・助言や教育実習の事例研究、指導主事等による教科指導や指導計画に関する解説を行う。

事後指導においては、教育実習生による、「教育実習記録簿」等に基づく教育実習の振り返りや教育実習の成果を踏まえた教材研究・指導案の再検討・グループ討議を踏まえ、教科担当教員等による講評、指導・助言等を行う。

ク　教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教育実習担当教員による実習校研究授業の参観時に指導を行う。なお、教育実習担当教員は、教職課程を置く各学部の教員で構成しており、教員の教育研究に支障が出ない体制となっている。

ケ　実習施設における指導者の配置計画

実習校では、教育実習を行う教科に応じ、担当教諭を配置して指導を行っている。

コ　成績評価体制及び単位認定方法

事前指導・事後指導、「教育実習記録簿」、「教育実習生成績評価表」を総合して成績評価を行う。

７　取得可能な資格

農学部農学科で取得可能な資格は、国家資格である高等学校教諭一種免許状（農業）であり、資格取得にあたっては、卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職関連科目の修得が必要である。なお、資格取得が卒業の要件ではない。

８　入学者選抜の概要

１．アドミッション･ポリシー

【アドミッション・ポリシー】

『求める学生像』

農学部農学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材。

農学部農学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身に付けられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（１）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から複数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（２）思考力・判断力・表現力

生命や環境に関心を持ち、農業や社会の問題解決に取り組むために、自然科学や社会科学等の多様な知識を総合的に思考し判断する力が期待できること。

（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観や立場・役割を理解し、自分と自分以外の人及び社会システムと健全な関係を築くことができ、物事に対して主体的に取り組むことが期待できること。

２．入学者選抜の概要

農学部農学科の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」の試験により選抜行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」、「面接試験（口述試験含む）」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の３科目または理系の３科目を受験して高得点の２科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、３教科の科目を受験して３科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、学校推薦による選抜入試 29%、学力等による選抜入試 71%である。

３．入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委

員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上の教員とし、学長が任命する体制となっている。

９　教員組織の編成の考え方及び特色

１．専任教員組織

農学部農学科の専任教員組織は、教授４名、准教授１名、講師３名の８名で構成されており、完成年度における年齢構成は、40～49 歳３名、50～59 歳３名、60～64 歳２名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員はいない。**【資料４】参照**

完成年度後の教員組織の計画については、令和７年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指し、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

２．教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「Ⅱ現代教養科目」の「入門ゼミナール１・２」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

３．専門科目の教員配置の考え方

専門科目についての担当教員の考え方は、その科目に最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。「自然科学関連科目」以外の学科目は、原則として農学科の専任教員が担当する。

「学部共通科目」

「農学概論Ａ・Ｂ」は、農学部他学科の教員が兼担で担当し、各専門分野について平易に解説する。「総合農学実習」については農学科の専任教員が担当する。

なお、「生物学実験」、「化学実験」、「農業経営経済学」、「情報リテラシー」、「情報処理入門」、「人工知能概論」については、それぞれの分野において教育・研究実績のある兼担教員が担当する。

「自然科学関連科目」

「基礎生物学」、「基礎化学」を、各分野の基礎教育に実績が豊富な兼担教員が担当する。

「学科基礎科目」
農学の各分野の導入科目であり、教育・研究に実績のある農学科の専任教員がそれぞれ当該分野の科目を担当するが、「植物病理学」においてはその分野において教育・研究実績のある兼担教員が担当する。

「学科応用科目」
農学の各分野の最先端を学ぶ学科目であり、座学科目については、教育・研究に実績のある農学科の教員がそれぞれ当該分野の科目を担当するが、「植物病原学」は、その分野において教育・研究実績のある学内の兼担教員が担当する。実験・実習科目については、学科の全専任教員が担当する。

「学科総合科目」
「農学英語講読Ａ・Ｂ」、「卒業研究１・２」及び「卒業研究演習１・２」等は、研究室ごとの少人数教育で実施するため、教育・研究に実績が豊富な農学科の全専任教員が担当する。

「教職科目」
いずれの科目とも、それぞれの分野に造詣が深い兼任教員が担当する。

１０　施設・設備等の整備計画

１．校地、運動場の整備計画

農学部農学科は、１年次の教育を熊本校舎（熊本県熊本市）において、２～４年次の教育を臨空校舎（熊本県上益城郡）において行う。

１）熊本校舎

熊本校舎の校地面積は 87,075.92 ㎡であり、運動場としてグラウンドが整備されており、コミュニティハウス（食堂）やカフェテリアなどの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

２）臨空校舎

平成 28 年４月に発生した熊本地震により、本学農学部学生を含む多くの方々が犠牲となり、農学部の教育研究のフィールドであった阿蘇校舎は甚大な被害を受けた。これにより、農学部は、熊本校舎において教育研究を継続し、再建に向けて努力を続けてきたが、ようやく熊本県上益城郡益城町に新校舎（「臨空校舎」）を建設することとなった。

臨空校舎は、阿蘇くまもと空港から約 700m の近距離にあり、将来、阿蘇くまもと空港とともに地域の活性化の一翼を担うことが期待されている。臨空校舎の完成は、令和５年３月の予定である。

臨空校舎の校地面積は 105,805.00 ㎡であり、運動場や「芝生広場」や「エントランス広場」

などの学生の休息できる場所を整備する計画である。

２．校舎等施設の整備計画

１）熊本校舎

熊本校舎において、８号館を中心として、専任教員研究室、教室、実験室、パソコン演習室等を専用・共用として確保している。これにより、１年次の教育、教員の研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

２）臨空校舎

臨空校舎において、専任教員研究室、パソコン演習室、教室等を整備する校舎を建設するほか、農学部の教育研究に必要な農学教育・動物教育・食品加工の各実習棟、圃場、馬場、温室、牛舎等の各施設を設置する計画である。

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、農学部農学科の学問領域に関わる図書資料として、図書 41,544 冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの２形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。【資料５】参照

また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した 24 時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、農学部農学科の１年次が利用する熊本校舎の図書館の面積は 1,682 ㎡であり、閲覧室や東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用できる検索パソコンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。２～４年次が利用する臨空校舎の図書館については、面積は 1,178.5 ㎡、熊本校舎と同様に閲覧室や東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用できる検索パソコンを整備し、教育研究に支障のないよう計画している。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」（https://elib.maruzen.co.jp/）において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約 1550 タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど 500 タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の付属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の付属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS‐ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

熊本県内では、熊本県大学図書館協議会に参加、熊本県図書館連絡協議会にも加盟しており今後も活発な協力活動を展開する計画である。

１１　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

１年次の教育を熊本校舎（熊本県熊本市）において、２～４年次の教育を臨空校舎（熊本県上益城郡）において行い、熊本校舎の収容定員は 80 名、臨空校舎の収容定員は 240 名である。

専任教員の研究室、授業を行う教室等の各施設について、熊本校舎、臨空校舎それぞれに確保・整備し、熊本校舎における１年次の教育、臨空校舎における２～４年次の教育を支障なく実施することができる。

なお、熊本校舎、臨空校舎における各教員の出校日（授業実施日を含む）の曜日を固定していることから、教員・学生ともに、１日のなかで２校舎間を移動することは生じないため、余裕を持った授業運営ができる。また、学部学科の運営、教学、研究等を支える事務組織についても、熊本校舎、臨空校舎それぞれに構築するため、教育研究に支障がない体制となっている。

１２　管理運営

農学部農学科の管理運営は、基本的には農学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月１回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の３分の２以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

（１）研究及び教育に関する事項
（２）学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
（３）学生の学籍異動に関する事項
（４）教務及び学生生活に関する事項
（５）その他必要と認められる事項

また、農学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、ＦＤ活動の推進に関する「ＦＤ委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会

は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

１３　自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

１．機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（５年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

２．教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の３項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

３．認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和６（2024）年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記１及び２などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

１４　情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の２に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「教育研究上の目的」：トップ＞大学の概要＞学則

イ　教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学の概要＞において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】http:// www.u-tokai.ac.jp

「教育・研究組織」の名称

トップ＞大学の概要＞教育・研究組織について

「各学部」の名称

トップ＞教育・研究＞＜学部・学科＞及び＜大学院＞

ウ　教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜（大学の取り組み）教育研究年報＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（教育研究上の情報）＞において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜研究支援・体制＞において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「教員組織等」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞年齢別教員数

「教員が有する学位及び業績」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部・学科＞各

学部・学科（各研究科・専攻）トップ＞教員紹介「ResearchMap」
トップ＞教育・研究＞研究支援・体制＞研究活動・ライセンス検索＞教員研究活動情報の検索

エ　入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞理念・歴史＞教育研究上の目的及び養成する人材像、３つのポリシー＞に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞＜収容定員＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「入学者に関する受入方針」
トップ＞大学の概要＞（理念・歴史）教育研究上の目的及び養成する人材像、３つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」
トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞収容定員

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」
トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数

オ　授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞＜情報の公表＞（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要＞においてシラバス」を公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス
トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（授業について）シラバス又は年間授業計画の概要＞授業内容・計画（シラバス）

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている

事項については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」
トップ＞教育・研究＞[学部・学科]、[大学院]＞各学部・学科・専攻・課程・研究科トップ＞カリキュラム

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ＞情報の公表＞（学校法人東海大学　情報公開）校地・校舎面積・耐震化率として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「学生の教育研究環境等」：トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（学校法人東海大学　情報公開）校地・校舎面積・耐震化率

ク　授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜受験・入学案内＞において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」
トップ＞受験・入学案内＞学部・学科学費、大学院学費

ケ　大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜キャリア・就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「修学支援」：トップ＞学生生活＞学生生活サポート
「進路選択支援」：トップ＞学生生活＞キャリア就職
「心身の健康等に係る支援」：トップ＞学生生活＞教育支援組織＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp

【健康推進センターサイト】http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果　等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、３つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成 29 年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜学則・コンプライアンス＞＜において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】http://www.u-tokai.ac.jp

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」
トップ＞大学の概要＞教育研究上の目的及び養成する人材像、３つのポリシー

「学則」
トップ＞大学の概要＞学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」
トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」
トップ＞大学の概要＞自己点検評価活動

１５　教育内容等の改善のための組織的な研修等

１．教育支援センターによる全学実施体制

東海大学は、組織的・継続的なＦＤ活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「ＦＤ・ＳＤ研修会」を開催している。例年、年度において３回開催しており、この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

２．各学部の取り組み

農学部農学科では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形

態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてＰＤＣＡのサイクルを実施する。

農学部にＦＤ委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたＦＤ研究会を実施する。さらにＦＤ委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、ＦＤの講演会を定期的に開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のＦＤ研究会を実施し、農学部所属教員による担当授業の改善報告やＦＤの講演会を開催し､講師として､優れた授業を行う教員を大学として表彰する｢東海大学 Teaching Award｣の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。

なお、学部においてMSS（Mission Sharing Sheet）を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、ＰＤＣＡサイクルを実現する。

１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１．教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をとおして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、農学部の「学部共通科目群」に「農学概論Ａ・Ｂ」を開設し、農学を通じて、これからの社会の持続的な発展のために必要な考え方や能力をいかに身に付けていくのかを認識することを目指し、人間社会を取り巻く自然の役割と農学、植物科学、動物科学等について概説し、その多様性や学際性を理解して総合科学としての農学の学びがこれからの自分自身の成長にどのように結びつくのか考えることにより、社会的、職業的な自立につなげる。

２．教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプ

ロジェクト」により、本学が実践している４つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

３．適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うＴｏ－Ｃｏｌｌａｂｏを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うＴｏ－Ｃｏｌｌａｂｏにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以　上

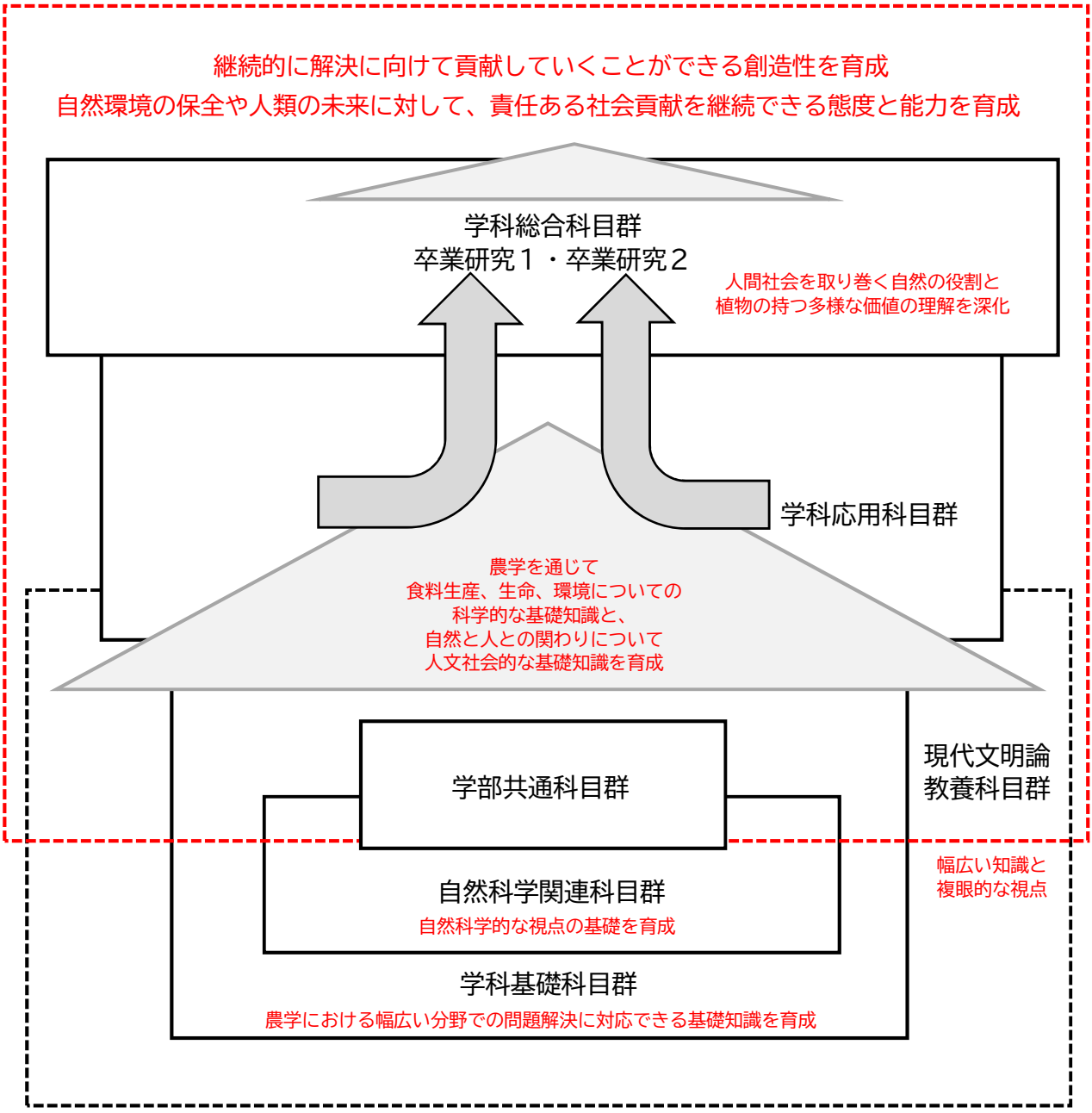
設置の趣旨等を記載した書類
農学部農学科

【資料目次】

資料１　「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図…p. 2
資料２　履修モデル…p. 3
資料３　実習受入れ承諾書…p. 5
資料４　学校法人東海大学教職員定年規程…p. 6
資料５　学術雑誌一覧…p. 8

農学部農学科

「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図



履修モデル：農学部農学科　【具体的な人材像】広い視野と優れた技能を持ち地域のリーダーとなる農業生産者

科目区分	１年次				２年次				３年次				４年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
Ⅰ現代文明論					現代文明論	2											
Ⅱ現代教養科目	入門ゼミナールＡ	2	入門ゼミナールＢ	2			現代教養講義	2									
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2													
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1													
Ⅲ英語科目	英語リスニング＆スピーキング	2	英語リーディング＆ライティング	2													
Ⅳ主専攻科目	農学概論Ａ	2	生物学実験	1	総合農学実習	1	農学実習Ｃ	2	農業経営経済学	2	農学特別実験実習２	2	卒業研究１	2	卒業研究２	2	
	農学概論Ｂ	2	化学実験	1	植物の生態	2	農学実験２	2	農学特別実験実習１	2	農学英語講読Ａ	2	卒業研究演習１	2	卒業研究演習２	2	
	情報リテラシー	2	情報処理入門	2	植物の遺伝	2	蔬菜花卉園芸学	2	農産加工実習	1	分子遺伝学	2	農学英語講読Ｂ	2			
	基礎生物学	2	基礎化学	2	植物病理学	2	植物育種学	2	人工知能概論	2	生化学	2					
	植物の形態と機能	2	土と肥料	2	作物の生産	2	環境緑地学	2	応用昆虫学	2	動物管理・環境学	2					
	園芸学の基礎	2	果物の科学	2	農学実習Ａ	1	作物生産生理学	2	食品バイオテクノロジー	2	動物飼料学	2					
			昆虫生物学	2	農学実習Ｂ	2	植物バイオテクノロジー	2	食品学	2	地学	2					
					農学実験１	2	植物病原学	2	生体物質の化学	2	野生動物論	2					
					作物学	2	動物生理学	2	動物行動学	2	地域動物論	2					
					果樹園芸学	2			草地学	2							
単位数合計		19		19		20		20		19		18		6		4	125

履修モデル：農学部農学科　【具体的な人材像】地域貢献への意欲と専門的知識・技能を持つ農業高校教員

科目区分	１年次				２年次				３年次				４年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
Ⅰ現代文明論					現代文明論	2											
Ⅱ現代教養科目	入門ゼミナールＡ	2	入門ゼミナールＢ	2			現代教養講義	2									
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2													
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1													
Ⅲ英語科目	英語リスニング＆スピーキング	2	英語リーディング＆ライティング	2													
Ⅳ主専攻科目	農学概論Ａ	2	自然災害と暮らし	2	総合農学実習	1	農学実習Ｃ	2	農学特別実験実習２	2	卒業研究１	2	卒業研究２	2	卒業研究２	2	
	農学概論Ｂ	2	生物学実験	1	植物の生態	2	農学実験２	2	農学英語講読Ａ	2	卒業研究演習１	2	卒業研究演習２	2	卒業研究演習２	2	
	情報リテラシー	2	化学実験	1	植物の遺伝	2	蔬菜花卉園芸学	2	農産加工実習	1	農業科教育法２	2	農学英語講読Ｂ	2	職業指導Ｂ	2	
	基礎生物学	2	情報処理入門	2	植物病理学	2	植物育種学	2	作物学	2	分子遺伝学	2	職業指導Ａ	2			
	植物の形態と機能	2	基礎化学	2	作物の生産	2	環境緑地学	2	応用昆虫学	2	生化学	2					
	園芸学の基礎	2	土と肥料	2	農学実習Ａ	1	作物生産生理学	2	農業科教育法１	2	動物管理・環境学	2					
			果物の科学	2	農学実習Ｂ	2	植物バイオテクノロジー	2	生体物質の化学	2	野生動物論	2					
					農学実験１	2	植物病原学	2	動物行動学	2	地域動物論	2					
					人工知能概論	2	動物生理学	2	草地学	2							
					果樹園芸学	2											
単位数合計		19		19		20		20		17		16		8		6	125

※教員免許取得希望者は、上記の科目以外に卒業要件に含まれない教職要件科目を履修する。

資料４

○学校法人東海大学教職員定年規程

（制定　昭和28年６月１日）

改訂　昭和43年４月１日　　昭和63年４月１日
1991年６月17日　　1994年４月１日
2000年４月１日　　2003年４月１日
2004年４月１日　　2006年４月１日
2007年４月１日　　2011年４月１日
2012年４月１日　　2013年４月１日
2017年４月１日

第１条　学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は，次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資　格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職１種・２種	65
			中級職１種・２種	62
			一般職１種	62
		助教諭	一般職２種	60
	2004年４月１日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職１種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		１等級～４等級	65
			５等級～７等級	62
			８等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65

			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第２条　定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第３条　定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第 143 条による。ただし，2000 年３月 31 日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第４条　教育上又は経営上必要と認めた者については，第１条の規定を適用しない。

第５条　「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付　則

１　この規程は，昭和 28 年６月１日から施行する。

２　この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付　則（2017 年４月１日）

この規程は，2017 年４月１日から施行する。

学術雑誌一覧

農学部農学科

No.	雑誌名（国内雑誌）
1	園芸学研究. 別冊, 園芸学会大会研究発表要旨
2	飼料研究報告
3	静岡県農林技術研究所研究報告
4	雑草と作物の制御
5	熱帯農業研究
6	植物環境工学
7	広島県立総合技術研究所農業技術センター研究報告
8	酒類総合研究所報告
9	業務報告書 / 三重県林業研究所 [編].
10	特産種苗
11	農業経営統計調査報告. 営農類型別経営統計(組織経営編)
12	農薬調査研究報告
13	乳用牛群能力検定成績のまとめ
14	農業
15	北里大学研究年報
16	北海道立総合研究機構農業試験場報告
17	山形県農業研究報告
18	愛媛県農林水産研究所企画環境部・農業研究部研究報告
19	京都府農林水産技術センター農林センター研究報告. 農業部門
20	秋田県総合食品研究センター報告
21	東海大学紀要. 農学部
22	人間科学研究
23	研究報告 / 岡山県農林水産総合センター森林研究所 [編]
24	特別報告 / 静岡県農林技術研究所 [編]
25	林業技術総合センター成果報告
26	業務報告 / 宮城県林業技術総合センター [編]
27	山梨県畜産試験場研究報告
28	京都府農林水産技術センター畜産センター試験研究報告
29	AFC forum : フォーラム
30	山梨県総合農業技術センター研究報告
31	研究報告 / 熊本県林業研究指導所.
32	岐阜大学大学院連合農学研究科広報
33	東海大学国際文化学部紀要
34	鹿児島県森林技術総合センター研究報告
35	東海大学総合経営学部紀要
36	年報 / 岩手大学農学部附属寒冷バイオフロンティア研究センター [編]
37	生命環境学術誌 / 県立広島大学生命環境学部 [編].
38	三重大学大学院生物資源学研究科紀要
39	石川県立大学年報 : 生産・環境・食品 : バイオテクノロジーを基礎として

40	地球環境研究 = Bulletin of geo-environmental science / 立正大学地球環境科学部 [編].
41	近畿大学農学部紀要
42	業務概要 / 千葉県農林総合研究センター [編].
43	千葉県農林総合研究センター研究報告
44	千葉県農林総合研究センター特別報告
45	静岡県畜産技術研究所研究報告
46	業務成績報告書 / 愛媛県農林水産研究所林業研究センター [編]
47	東海大学紀要. 情報通信学部
48	教育開発 = Educational development / 東海大学教育開発研究所 [編]
49	東海大学紀要. 観光学部
50	心理臨床の広場
51	農学国際協力 / 名古屋大学農学国際教育協力研究センター [編集]
52	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集
53	鳥取県農林水産部農林総合研究所中小家畜試験場研究報告
54	岡山県農林水産総合センター畜産研究所研究報告
55	業務報告書 / 山口県農林総合技術センター林業技術部 [編].
56	農村経済研究
57	広島大学大学院生物圏科学研究科瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター報告
58	石川県農業総合研究センター研究年報.
59	業務年報 / 茨城県農業総合センター生物工学研究所 [編集]
60	業務報告 / 和歌山県林業試験場 [編]
61	年報 / 高知大学海洋コア総合研究センター [編]
62	愛媛県農林水産研究所果樹研究センター研究報告
63	島根県農業技術センター研究報告
64	京都府立大学学術報告. 生命環境学
65	福島県林業研究センター研究報告
66	東海大学紀要. 生物学部
67	基盤教育センター紀要 /
68	林業研究部年報
69	栃木県畜産酪農研究センター研究報告
70	農業研究所研究年報 / 岡山県農林水産総合センター農業研究所 [編].
71	石川県農林総合研究センター林業試験場研究報告
72	秋田県畜産試験場研究報告 / 秋田県畜産試験場 [編]
73	年報 = Annual report of the Forest Products Research Institute / 北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場
74	コーチング・クリニック = Coaching clinic
75	JATAFFジャーナル
76	総合農協統計表 : 農業協同組合統計表
77	大分県農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ試験研究年報
78	茨城県農業総合センター園芸研究所研究報告
79	和歌山県農林水産試験研究機関研究報告
80	National geographic = ナショナルジオグラフィック.

81	Pig journal
82	養豚の友
83	養鶏の友
84	水産白書 / 水産庁編
85	園芸Japan
86	日本雑草学会大会講演要旨集
87	動物園水族館雑誌
88	臨床心理学
89	Training journal
90	教育と医学
91	体育の科学
92	榮養と料理
93	バイオサイエンスとインダストリー
94	東海大学教育開発研究センター研究資料集
95	東海大学紀要. 国際教育センター. 英語教育部門・国際言語教育部門
96	農研機構研究報告. 動物衛生研究部門
97	農研機構研究報告. 農業環境変動研究センター
98	園芸学研究
99	東海大学教育開発研究センター紀要
100	東海大学現代教養センター紀要
101	農研機構研究報告. 果樹茶業研究部門
102	林業技術総合センター研究報告 / 宮城県林業技術総合センター [編]
103	福岡県農林業総合試験場特別報告
104	福岡県農林業総合試験場研究報告
105	業務報告書 / 熊本県林業研究・研修センター [編集]
106	年報 / 栃木県林業センター.
107	富山県畜産試験場年報
108	宮崎大学農学部研究報告
109	野菜試験場研究資料 / 野菜試験場
110	家畜衛生週報 / 畜産局衛生課 [編]
111	技術と普及
112	Bio industry
113	現代化学
114	育種学雑誌
115	臨床獣医
116	農業と經濟
117	植物防疫
118	趣味の山野草
119	自然と野生ラン
120	Fumin : 農業富民
121	NHK趣味の園芸
122	経済セミナー
123	機械化農業

124	食品衛生研究
125	人民中国
126	NHKきょうの健康
127	原子力工業.
128	時事英語研究
129	月刊フードケミカル
130	切抜き速報. 科学版
131	果實日本 /
132	地上 / 家の光協会 [編]
133	日本作物學會紀事
134	雑草研究
135	日本土壌肥料學雑誌
136	月刊組織培養工学
137	食品工業
138	食の科学
139	月刊細胞
140	Birder
141	野菜園芸技術
142	日本畜産學會報
143	染色体. II : 基礎細胞学雑誌
144	アジア経済
145	園藝學會雜誌
146	農業氣象
147	農業技術
148	農耕と園芸
149	AFF : agriculture forestry fishery
150	細胞工学
151	化学と生物
152	大学と学生
153	化学 = Chemistry
154	日経サイエンス
155	Newton : graphic science magazine
156	パリティ
157	農業および園芸
158	農業経営研究
159	農作業研究
160	New food industry
161	蛋白質・核酸・酵素
162	Molecular medicine
163	AGRI : 農業くまもと
164	畜産の研究
165	科學
166	Bio九州

167	熊本の果樹
168	畜産技術
169	日本食肉加工情報
170	今月の農業 : 農薬・資材・技術
171	熊本県気象月報
172	解剖學雜誌 /
173	農村計画学会誌 =
174	月刊食糧ジャーナル
175	博物館研究
176	近代盆栽
177	現代農業
178	養豚界
179	エネルギーフォーラム
180	望星
181	青少年問題
182	生物環境調節
183	化学と薬学の教室
184	獣醫畜産新報
185	日本の養豚
186	園芸ガイド
187	日本獣医師会雑誌
188	植物の化学調節
189	デーリィ・ジャパン
190	教育相談研究
191	日本家禽学会誌
192	放射線科学
193	日本植物病理學會報
194	經濟研究 / 一橋大學經濟研究所編輯
195	博物館学雑誌
196	遺傳
197	Feeding
198	日本生態學會誌
199	園芸学会雑誌. 別冊, 園芸学会大会研究発表
200	日本菌学会会報
201	日本農業の動き
202	熱帯農業
203	日本応用動物昆虫学会誌
204	ペドロジスト
205	組織培養
206	農林水産省広報
207	愛知県農業総合試験場研究報告
208	愛知県農業総合試験場年報
209	林業センター報告 / 愛知県林業センター [編]

210	月刊日本の生物
211	日本細菌學雜誌
212	秋田県畜産試験場研究報告
213	畜産試験場の概要
214	秋田県果樹試験場研究報告
215	秋田県果樹試験場業務報告
216	農林水産情報と統計
217	秋田県農業試験場研究報告
218	麻布大学獣医学部研究報告
219	千葉県暖地園芸試験場研究報告
220	千葉県原種農場研究報告
221	Botany / 熊本記念植物採集会 [編]
222	千葉県農業試験場特別報告
223	畜産研究成果情報
224	埼玉県園芸試験場研究報告
225	畜産の情報
226	動物の原虫病
227	愛媛県農業試験場研究報告
228	日本作物学会九州支部会報
229	別冊日経サイエンス
230	年報 / 農林水産省林野庁林木育種センター九州育種場 [編]
231	植物組織培養
232	鹿兒島大學農學部學術報告
233	徳島県立博物館研究報告
234	徳島県果樹試験場研究報告
235	広島大学生物生産学部農場報告
236	京都府農業研究所研究報告
237	京都大学生物資源経済研究
238	京都府立大學學術報告. 農學
239	京都大學食糧科學研究所報告
240	玉川大学農学部研究報告
241	試験研究実績報告書 / 高知県農業技術センター果樹試験場
242	琉球大学農学部学術報告
243	九州農業情勢報告 / 九州農政局 [編]
244	筑波大学農林学研究
245	東北農業経済研究
246	農林統計調査
247	東海大學紀要. 政治経済学部
248	東海大学紀要. 課程資格教育センター
249	香川県農業試験場研究報告
250	業務報告 / 鹿兒島縣農業試驗場. -- 昭和25年度 (昭25)-. -- 鹿児島県農業試験場, 1950.
251	長崎県総合農林試験場業務報告

252	鹿児島県農業試験場研究報告
253	家畜改良センター乳用種雄牛評価成績
254	植物防疫所調査研究報告
255	京都府畜産研究所試験研究成績
256	熊本県農業研究センター研究報告
257	公庫月報
258	農林金融
259	農林水産統計月報
260	岐阜大学農学部研究報告
261	種苗法による品種登録
262	いぐさ加工に関する試験成績書
263	熊本県家畜保健衛生業績発表集録
264	農林水産省家畜衛生試験場研究報告
265	農薬
266	雑草とその防除
267	家畜衛生の進歩
268	日本草地学会誌. 別号
269	日本の農業
270	日本作物學會紀事. 別号
271	熊本県農業動向年報
272	科学朝日
273	熊本県畜産統計
274	日本作物学会四国支部紀事
275	松前文庫
276	精神療法
277	鹿児島県畜産試験場研究報告
278	林産試験場報
279	農業生物資源研究所研究資料
280	家畜衛生研究成果情報
281	北海道立農業試験場集報
282	九州農業研究成果情報
283	農業試験場年報
284	北海道農試農業経営研究
285	畜産試験場年報 / 農林省畜産試験場
286	草地飼料作研究成果最新情報
287	北陸農業試験場報告
288	四国農業試験場研究資料
289	飼料作物種子関係調査成績
290	農業経営研究成果集報
291	九州農業の新技術
292	農業研究センター研究報告
293	農業環境技術研究所報告
294	農林水産省育成農作物新品種. 夏作物・園芸作物等

295	ガーデンライフ
296	品種登録年報 / 農林水産省農蚕園芸局 [編]
297	農業環境技術研究所資料
298	研究成果 / 農林水産技術会議事務局
299	國立公園
300	実験医学
301	酪農科学・食品の研究
302	日本農藝化學會誌
303	日本食品工業学会誌
304	食品衛生学雑誌
305	育種学研究
306	気象庁月報
307	農村物価統計
308	国際農林水産統計
309	農業総合試験場年報 / 愛知県農業総合試験場 [編集]
310	茶道雑誌
311	English express
312	在来家畜研究会報告
313	動物遺伝研究所年報
314	動物遺伝研究会誌
315	柑きつに関する試験成績
316	養豚試験場年報
317	江津湖
318	日本海地域の自然と環境：福井大学積雪研究室研究報告
319	福井県畜産試験場研究報告
320	福岡県農業総合試験場特別報告
321	年報 / 福岡県森林林業技術センター [編]
322	広島県立農業技術センター研究報告
323	広島県立畜産技術センター研究報告
324	北海道立農業試験場報告
325	北海道大学農学部牧場研究報告
326	北海道立農業試験場資料
327	農業普及研究Hokkaido
328	人と自然
329	育種学雑誌. 別冊
330	岩手県畜産試験場研究報告
331	試験成績書(畜産研究所)
332	岩手県農業研究センタ-年報
333	年報 / 岩手大学農学部附属寒冷バイオシステム研究センター [編]
334	実験動物
335	自給飼料
336	家畜繁殖学雑誌
337	家畜の管理

338	科学技術文献速報. 物理・応用物理編
339	科学技術文献速報. 化学・化学工業編(外国編)
340	科学技術文献速報. 化学・化学工業編(国内編)
341	九州農試年報 / 農林省九州農業試験場.
342	農林水産技術研究ジャーナル / 農林水産技術情報協会 [編]
343	農業研究 / 日本農業研究所 [編]
344	農業環境技術研究所年報
345	宮崎県総合農業試験場研究報告
346	業務報告 / 宮崎県林業試験場
347	果樹試験場報告 = Bulletin of the Fruit Tree Research Station / 農林水産省果樹試験場 [編]
348	農業総合研究所年報 / 農林省農業総合研究所 [編集]
349	岐阜県養鶏試験場研究報告
350	種苗管理年報
351	名城大学農学部学術報告
352	東北農業試験場研究報告
353	畜産試験場研究報告
354	農業研究センター研究資料
355	試験研究成績書 / 佐賀県畜産試験場
356	靜岡大學農學部研究報告
357	野菜試験成績書 / 高知県農業技術センター
358	高知県農業技術センター研究報告
359	日本獣医畜産大学研究報告
360	香川県畜産試験場研究報告
361	鹿児島県養鶏試験場研究報告
362	鹿児島県果樹試験場研究報告
363	農村研究
364	熊本の畜産
365	試験成績書 / 熊本県農業研究センター果樹研究所 [編]
366	業務報告 / 熊本県果樹試験場
367	試験成績書 / 熊本県畜産試験場阿蘇支場 [編]
368	県民所得推計報告書 / 熊本県企画開発部統計調査課 [編]
369	業務報告書 / 熊本県林業研究指導所 [編]
370	野菜試験成績書 / 熊本県農業試験場園芸支場
371	野菜試験成績書 / 熊本県農業試験場阿蘇分場
372	いぐさ試験成績書 / 熊本県農業試験場八代支場 [編]
373	時事英語
374	神戸大学農学部学術報告
375	日本農業新聞. -- 縮刷版
376	食品と開発
377	熊本博物館館報
378	試験成績書 / 熊本県農業研究センター高原農業研究所[編]
379	試験成績書 / 熊本県農業研究センター球磨農業研究所 [編]

380	熊本県農業研究センター草地畜産研究所試験成績書
381	農業気象年報 / 熊本県熊本地方気象台[編]
382	病害虫試験成績書 / 熊本県農業試験場
383	熊本県農業試験場報告
384	園芸工芸農作物・養蚕市町村別統計 熊本県 / 九州農政局統計情報部編
385	農作物有害動植物発生予察事業年報 : 普通作・野菜 / 熊本県 [編]
386	農作物有害動植物発生予察事業年報植物防疫事業年報 / 熊本県 [編]
387	業務功程 / 熊本縣立農事試験場
388	熊本生物
389	京大農場報告
390	九州大学農学部農場報告
391	九州大学教養部地学研究報告
392	九州大学農学部農場研究資料
393	九州大学農学部農場年報
394	九州大学健康科学センター年報
395	健康科学
396	九州食料・農業・農村情勢報告
397	九州における農地の動き
398	九州産業技術 / 九州産業技術センター
399	九州東海大学農学部紀要
400	九州東海大学総合農学研究所所報
401	九州東海大学紀要. 工学部
402	熊本農林水産統計年報. 農林編 / 農林省熊本統計調査事務所
403	九州東海大学産業技術研究所所報
404	情報開発研究室所報 / 九州東海大学
405	LIAJ news / 家畜改良事業団
406	宮崎県畜産試験場試験研究報告
407	長野県果樹試験場報告
408	長崎県総合農林試験場研究報告. 農業部門
409	日本家畜管理研究会誌
410	日本植物防疫協会研究所報告
411	日本養豚研究会誌
412	日本養豚学会
413	新潟県畜産試験場研究報告
414	肉の科学
415	事業報告書 / 日産科学振興財団
416	研究報告書 / 日産科学振興財団
417	農業經濟研究
418	農業経済論集
419	農業機械學會誌
420	農業機械學會総會講演要旨
421	農業及園藝
422	Fragrance journal : 香粧品原料研究開発専門誌

423	試験研究成績書 / 山梨県酪農試験場
424	北陸農業研究資料 / 北陸農業試験場
425	九州病害虫研究会報
426	島根大学生物資源科学部研究報告
427	滋賀県立大学環境科学部年報
428	山形大學紀要. 農學
429	筑波国際センター業務報告書 /
430	静岡県農業試験場研究報告
431	情報開発センター所報 / 九州東海大学
432	クロスロード.
433	肉牛ジャーナル
434	植物細胞工学
435	NHKテレビ中国語会話
436	養牛の友 : 乳と肉を創る生産者と共に / 日本畜産振興会. -- 1号 (昭51.1)-. -- 日本畜産振興会, 1976.
437	畜産試験場研究資料 / 農林水産省畜産試験場
438	畜産試験場報告 / 農林省畜産試験場
439	畜産試験場彙報 / 農林省畜産試験場
440	畜産試験場要覧 / 農林省畜産試験場
441	茶業試験場研究報告
442	茶業技術研究
443	動物検疫年報
444	酪農事情
445	Food style 21
446	奈良県畜産技術センター研究報告
447	島根県立畜産試験場研究報告
448	福島県畜産試験場研究報告
449	九州沖縄農業試験研究成績・計画概要集. 畑作
450	佐賀県農業試験研究センター研究報告
451	佐賀県農業試験場研究報告
452	サイエンス : Scientific American日本版
453	岐阜県畜産研究所研究報告
454	ペット栄養学会誌
455	埼玉県農業試験場年報
456	動物衛生研究所研究報告
457	埼玉県養鶏試験場研究報告
458	生物科学ニュース
459	生物科學 /
460	季刊精神療法
461	切抜き速報. 科学と環境版
462	蛋白質・核酸・酵素. 別冊
463	統計と情報
464	東海大学外国語教育センター所報

465	東海大学紀要. 工学部 .
466	東海大学紀要. 開発工学部
467	東海大学紀要. 外国語教育センター
468	東海大学紀要. 体育学部
469	東海大学紀要. 学生生活研究所
470	東海大学紀要. 教育研究所学生生活部門
471	九州大学農学部農場研究報告
472	東海大学札幌教養部彙報
473	東海大学海洋学部業績集
474	東海大学海洋研究所資料
475	東海大学海洋研究所研究報告
476	東海大学紀要. 文学部 /
477	東海大学紀要. 海洋学部一般教養
478	東海大学紀要. 海洋学部
479	東海大学紀要. 教育研究所
480	東海大学紀要. 教育研究所教育工学部門
481	東海大学紀要. 教養学部
482	東海大学紀要. 留学生教育センター
483	行動科学研究 / 東海大学基礎社会科学研究所 [編]
484	教育工学研究所研究報告 / 東海大学教育工学研究所 [編]
485	東海大学スポーツ医科学雑誌
486	総合研究機構報告 : 研究奨励補助金・異研究奨励基金 / 東海大学総合研究機構 [編]
487	東海大学短期大学紀要
488	東海大学短期大学部教育研究年報
489	東海法学 / 東海大学法学部 [編]
490	徳島県果樹試験場業務報告 /
491	農工研究所彙報 / 東京教育大学農学部農工研究所
492	東京農業大学農場報告
493	東京大学農学部附属農場運営報告
494	東京都農業試験場研究報告
495	土地と農業
496	業務報告 / 鳥取県中小家畜試験場, 鳥取県立中小家畜講習所 [編]
497	鳥取県中小家畜試験場研究報告
498	業務功程 / 鳥取県農業試験場
499	鳥取大学農学部砂丘研究所報告
500	試験研究成績報告 / 鳥取県畜産試験場 [編]
501	業務年報 / 鳥取県園芸試験場 [編]
502	鳥取県園芸試験場報告
503	鳥取県園芸試験場特別報告
504	業務年報 / 鳥取県果樹試験場
505	富山県畜産試験場試験成績書
506	富山県畜産試験場研究報告
507	富山県農業技術センター研究報告

508	富山県林業技術センター研究報告
509	兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告. 農業編
510	兵庫県立農林水産技術総合センター研究報告. 畜産編
511	近畿中国四国農業研究センター研究資料
512	筑波大学農林学系年報
513	海のはくぶつかん / 東海大学海洋科学博物館 [編]
514	宇都宮大学農学部学術報告特輯
515	宇都宮大学農学部學術報告
516	宇都宮大学農学部農場報告
517	和歌山県農業試験場研究報告
518	和歌山県農業試験場年報
519	農作物有害動植物発生予察事業成績. 果樹病害虫 / 和歌山県果樹園芸試験場, 和歌山県果樹病害虫防除所 [編]
520	業務報告 / 和歌山県農林水産総合技術センター林業センター [編]
521	和歌山県農林水産総合技術センター研究報告
522	和歌山県農林水産総合技術センター特別研究報告
523	和歌山県果樹園芸試験場研究報告
524	山形農林学会報
525	業務年報 / 山形県森林研究研修センター [編]
526	山形県立園芸試験場研究報告 / 山形県立園芸試験場 [編]
527	農業試験場業務年報 / 山形県立農業試験場 [編]
528	山形縣立農林專門學校研究報告
529	山梨県酪農試験場研究報告
530	総合食品研究所の業務概要 / 秋田県総合食品研究所 [編]
531	秋田県総合食品研究所報告
532	畜産環境技術研究所年報 / 畜産環境整備機構畜産環境技術研究所 [編集]
533	作物研究所研究報告
534	北海道農業研究センター農業経営研究
535	茨城県畜産センター研究報告
536	細胞
537	業務年報 / 鳥取県果樹野菜試験場.
538	業務報告 / 和歌山県農林水産総合技術センター林業試験場 [編]
539	京都府立茶業研究所業務年報
540	業務報告 / 長崎県果樹試験場
541	熊本県農業試験場研究報告
542	新潟大学農学部紀要 / 新潟大学農学部 [編輯]
543	業務報告 / 群馬県林業試験場.
544	九州大学大学院農学研究院学芸雑誌
545	九州農試農村計画研究資料
546	九州東海大学一般教育紀要
547	九州東海大学総合教育研究センター紀要
548	食肉流通統計 / 農林省統計調査部 [編]
549	畜産試驗場年報 / 農林省畜産試験場

550	農林水産業生産指数 / 農林省農林経済局統計調査部
551	農林水産試験研究年報. 農業編・林業編, 国立
552	農林水産省統計表
553	弘前大学農学生命科学部学術報告
554	年報 / 農業生物資源研究所 [編]
555	ポケット園芸統計
556	ポケット農林水産統計
557	ポケット肥料要覧 /
558	農業・食料関連産業の経済計算
559	繭生産費調査報告 / 農林省農林経済局統計調査部
560	農業経営統計調査報告. 繭生産費
561	南九州大学研究報告. A, 自然科学編
562	南九州大学研究報告. B, 人文社会科学編
563	宮城県農業・園芸総合研究所研究報告
564	木材需給報告書 / 農林省統計調査部編
565	野菜生産出荷統計 / 農林省農林経済局統計情報部 [編]
566	農産物生産費調査報告. 果実生産費
567	農家経済調査報告
568	農産物生産費調査報告. 工芸農作物等の生産費
569	農業経営統計調査報告. 工芸農作物等の生産費
570	山形県園芸研究報告 / 山形県立園芸試験場 [編集]
571	林業生産統計年報 / 農林省統計調査部.
572	森林・林業技術センター報告
573	農業経営統計調査報告. 米及び麦類の生産費
574	農業経営統計調査報告. 野菜・果樹品目別統計
575	農産物生産費調査報告. 野菜生産費 / 農林省農林経済局統計調査部 [編集]
576	農産物生産費調査報告. 米及び麦類の生産費 / 農林省農林経済局統計情報部 [編集]
577	農業動態調査報告書 / 農林水産省統計情報部
578	農業調査報告書 / 農林水産省統計情報部 [編]
579	畜産物流通統計 / 農林水産省統計情報部 [編]
580	畜産物生産費調査報告 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
581	農業経営統計調査報告. 畜産物生産費 / 農林水産省統計情報部 [編]
582	畜産統計 : 家畜飼養の概況 / 農林省農林経済局統計調査部 [編集]
583	農業構造動態調査報告書. 基本構造 / 農林水産省統計情報部 [編]
584	漁業動態調査 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
585	漁業動態統計年報 / 農林省農林経済局統計情報部 [編]
586	漁業就業動向統計年報 / 農林水産省統計部 [編]
587	漁業経済調査報告. 漁家の部 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
588	漁業経営調査報告 / 農林水産省統計情報部 [編]
589	漁業経済調査報告. 企業体の部 / 農林省統計調査部 [編]
590	農家の形態別にみた農家経済 : 農家経済調査の分析 /
591	漁業労働賃金調査報告 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
592	漁業養殖業生産統計年報 / 農林省農林経済局統計調査部 [編集]

593	農業調査結果報告書. 総括篇 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
594	牛乳乳製品統計 / 農林水産省統計情報部 [編集]
595	家畜衛生統計 / 農林省畜産局 [編].
596	農家経済調査報告. 物財統計 / 農林省農林経済局統計調査部
597	農家経済調査. 物財統計 / 農林省農林経済局統計調査部
598	農林省統計表 / 農林省總務局統計課 [編]
599	果樹生産出荷統計 / 農林省農林経済局統計情報部 [編].
600	花き生産出荷統計 / 農林水産省統計情報部 [編]
601	鶏卵流通統計 / 農林省統計調査部 [編]
602	鶏卵食鳥流通統計 / 農林省農林経済局統計情報部 [編]
603	農畜産業用固定資産評価標準 / 農林省農林経済局統計調査部
604	鶏卵食鳥流通統計・鶏ひなふ化羽数統計 / 農林水産省経済局統計情報部
605	農業物価統計 / 農林水産省統計部 [編]
606	耕地および作付面積統計 / 農林省農林経済局統計情報部 [編]
607	農村物価賃金統計 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
608	農家経済調査. 農家生計費統計 / 農林水産省統計情報部
609	図説林業白書 / 農林統計協会 [編集]
610	図説森林・林業白書 / 農林統計協会 [編]
611	図説農業白書 / 農林統計協会 [編集]
612	図説食料・農業・農村白書 / 農林統計協会 [編]
613	食料・農業・農村白書附属統計表 / 農林統計協会 [編集]
614	図説食料・農業・農村白書参考統計表 / 農林統計協会 [編集]
615	農業白書付属統計表 / 農林統計協会編.
616	農家経済調査報告. 第1・2集, 農家経済総合統計 / 農林省農林経済局統計調査部
617	農家経済調査報告. 第1集, 農家経済総合統計 / 農林省農林経済局統計調査部
618	図説漁業白書 / 農林統計協会
619	図説水産白書 / 農林統計協会 [編]
620	農林水産統計報告 農家生計費統計. -- 農林統計協会
621	食糧管理統計年報 / 食糧管理局
622	食糧統計年報 / 食糧庁 [編]
623	食糧需給表 / 農林大臣官房調査課 [編集]
624	農家經濟調査報告 / 農林省經濟更生部
625	飼料便覧 / 農林省畜産局流通飼料課監修
626	流通飼料便覧 / 農林水産省畜産局流通飼料課監修
627	市町村別水陸稲収穫量 / 農林水産省統計情報部 [編]
628	生産農業所得統計 / 農林省農林経済局統計情報部 [編]
629	農業災害補償制度年報 / 農林省農林経済局 [編集]
630	熊本農林水産統計年報 / 農林省熊本統計調査事務所
631	農業および農家の社会勘定 / 農林省統計調査部調整課
632	青果物卸売市場調査報告 / 農林省 [編]
633	鶏の研究
634	育種学研究. 別冊, 日本育種学会講演会要旨集 =
635	水産物流通統計年報 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]

636	農業経営統計調査報告. 農業経営動向統計 / 農林水産省統計情報部 [編集]
637	農地の移動と転用 : 農地移動実態調査結果 / 農林省構造改善局農政部農政課
638	北海道農業研究センター研究報告
639	ファーミングシステム研究
640	蚕糸・昆虫農業技術研究所年報
641	農作物災害種類別被害統計 / 農林省農林経済局統計情報部
642	生物と気象 / 日本農業気象学会 [編]
643	東海大学紀要. 電子情報学部
644	植物学雑誌
645	熱帯農学研究
646	明治大学農学部研究報告
647	文明 / 東海大学文明研究所 [編]
648	農業組織経営体経営調査報告 / 農林水産省統計情報部 [編集].
649	青果物流通経費調査報告 / 農林省統計情報部
650	青果物集出荷経費調査報告 / 農林水産省経済局統計情報部
651	青果物集出荷経費調査報告 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
652	聴く中国語 : 中国語学習月刊
653	中央農業総合研究センター研究資料 / 農業技術研究機構中央農業総合研究センター [編]
654	中央農業総合研究センター研究報告
655	麻布大学雑誌
656	千葉県畜産総合研究センター研究報告
657	業務概要 / 千葉県農業総合研究センター [編]
658	千葉県農業総合研究センター研究報告
659	千葉県農業総合研究センター特別報告
660	エネルギーくまもと. -- 熊本県エネルギー対策課
661	日本草地学会誌
662	技術士
663	総合教育センター紀要 / 東海大学 [編].
664	東海大学課程資格教育センター論集
665	日本食品科学工学会誌
666	日本の科学と技術
667	農業經濟研究
668	奈良県森林技術センター研究報告
669	Human security = ヒュ-マンセキュリティー / 東海大学平和戦略国際研究所 [編]
670	農林水産文献解題 / 農林水産省図書館編
671	農林水産研究文献解題 / 農林水産技術会議事務局編
672	作物統計 / 農林省農林経済局統計調査部 [編]
673	作物統計. 普通作物・飼料作物・工芸農作物 / 農林水産省農林経済局統計情報部
674	乳用牛評価報告 / 農林水産省家畜改良センター [編]
675	九州沖縄農研農業経営研究資料
676	日本畜産学会大会講演要旨 / 日本畜産学会 [編]
677	日本畜産学会大会大会要旨
678	日本畜産学会大会講演要旨

679	日本農業年鑑 / 農業復興会議編
680	農業観測概要 / 農林水産大臣官房調査課編
681	農業組織経営体経営調査報告. 農業組織経営体の生産費 / 農林水産省経済局統計情報部 [編集]
682	試験成績書 / 熊本県農業研究センター畜産研究所 [編]
683	北海道農業研究センター研究資料 / 農業技術研究機構北海道農業研究センター [編]
684	九州農業最前線 / 九州農政局統計情報部
685	九州アグリランキング / 九州農政局統計部
686	耕地及び主要農作物市町村別統計 / 九州農政局統計情報部編
687	耕地及び主要農作物市町村別データ / 九州農政局統計情報部編
688	熊本県生産農業所得統計 : 市町村別統計報告書 / 九州農政局統計情報部 [編]
689	くまもとの農業と経営
690	九州沖縄農業研究成果情報
691	農林漁業金融統計 / 農林中央金庫
692	東海大学海洋科学博物館年報
693	雑草研究. 別号, 講演会講演要旨
694	業務記録 / 林木育種センター九州育種場 [編]
695	教育研究年報 / 九州東海大学 [編]
696	食品ロス統計調査報告 / 農林水産省統計情報部 [編]
697	東海大学教育研究年報. 研究業績目録
698	東海大学教育研究年報 / 東海大学 [編]
699	東海大学医学部年報
700	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集
701	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設年報
702	東海大学医療技術短期大学教育研究年報 /
703	東海大学海洋研究所年報
704	海・人・自然 : 東海大学博物館研究報告
705	九州東海大学工学部紀要
706	東海大学総合医学研究所所報
707	TOEIC Test プラス・マガジン
708	食料・農業・農村白書 / 農林水産省編
709	森林・林業白書. 索引付き / 林野庁編
710	English zone.
711	東海大学教育研究年報
712	東海大学短期大学部教育研究年報
713	東京都農林総合研究センター研究報告

和雑誌　713種

No.	雑誌名（国外雑誌）
1	American camellia yearbook
2	SIAM journal on discrete mathematics :
3	Tropical agriculture and development
4	The Rice journal
5	National geographic
6	Dairy science & technology
7	Journal of bacteriology
8	Applied and environmental microbiology
9	Annual report
10	Agriculture and environment for developing regions
11	Journal of psycholinguistic research
12	Second language research
13	SABRAO journal of breeding and genetics
14	Molecular endocrinology
15	Nature and human activities
16	Journal of agricultural meteorology
17	The horticulture journal.
18	Rodale's organic life
19	Canadian journal of zoology
20	Animal welfare
21	Journal of mammalogy /
22	Mammalian genome
23	Journal of dairy science
24	Animal science
25	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America.
26	Journal of endocrinology
27	Nature
28	Soil science and plant nutrition
29	Analytical chemistry.
30	The anatomical record
31	Biochemistry
32	Journal of experimental botany
33	Annals of applied biology
34	Science. New series
35	Nature biotechnology
36	Endocrinology
37	The journal of experimental zoology
38	Organic gardening
39	Phytopathology
40	Plant disease
41	Canadian journal of botany.
42	Canadian journal of microbiology

43	Biological agriculture & horticulture : an international journal
44	Plant and cell physiology
45	Canadian entomologist
46	Agronomy journal
47	Poultry science
48	Applied radiation and isotopes
49	Milchwissenschaft
50	In vitro cellular & developmental biology. Animal
51	Journal of the science of food and agriculture
52	Heredity
53	The British journal of nutrition /
54	Developmental dynamics
55	Journal of animal science
56	Plant physiology
57	The journal of biological chemistry
58	Theriogenology
59	General and comparative endocrinology
60	Journal of adolescent health
61	The Camellia journal
62	American journal of agricultural economics
63	Journal of nutrition
64	Biology of reproduction
65	Hortscience : a journal of the American Society for Horticultural Science.
66	Genes & genetic systems
67	Journal of the American Society for Horticultural Science
68	Botanical journal of the Linnean Society
69	Vitis, viticulture and enology abstracts
70	Annals of botany
71	Plant cell reports
72	Grass and forage science
73	Archives of histology and cytology
74	The journal of veterinary medical science
75	Livestock production science
76	Biochimica et biophysica acta
77	Journal of agricultural and food chemistry
78	Reproduction, fertility and development
79	Animal behaviour
80	Scientia horticulturae
81	Journal of reproduction and fertility
82	Physiological and molecular plant pathology
83	Animal feed science and technology
84	Field crops research
85	Applied animal behaviour science

86	Australian journal of botany
87	Euphytica : Netherlands journal of plant breeding.
88	Physiologia plantarum / Societas Physiologiae Plantarum, Scandinavica
89	Plant growth regulation
90	Plant molecular biology
91	Biocycle
92	Journal of economic entomology
93	Plant cell, tissue and organ culture
94	Journal of cereal science
95	Tropical agriculture
96	American journal of botany
97	Annals of the Entomological Society of America
98	Agricultural economics
99	The American journal of clinical nutrition
100	The plant cell
101	Journal of nutritional science and vitaminology
102	New Zealand journal of agricultural research
103	The Journal of animal ecology.
104	Le Lait :
105	Soil Science Society of America journal
106	Japan quarterly.
107	Journal of marketing
108	Animal genetics
109	Journal of food science
110	Communications in soil science and plant analysis
111	Crop science
112	Ecology / Ecological Society of America
113	Canadian journal of agricultural economics
114	In vitro cellular & developmental biology
115	British poultry science
116	Journal of marketing research : JMR
117	The Proceedings of the Nutrition Society
118	Food science and technology, international
119	Ecological applications.
120	Journal of dairy research
121	Adult education quarterly.
122	Journal of horticultural science
123	Applied entomology and zoology
124	Entomologist's monthly magazine
125	Ecological research.
126	American journal of enology and viticulture
127	Mycoscience / Mycological Society of Japan
128	European review of agricultural economics

129	Silvae genetica
130	Tropical grasslands
131	Economic development and cultural change
132	Canadian journal of animal science
133	Agricultural education
134	Netherlands milk and dairy journal
135	Perceptual and motor skills
136	Phytomorphology
137	Indian journal of agricultural economics
138	American journal of physiology
139	Journal of agricultural economics
140	International journal of plant sciences
141	The Australian journal of agricultural and resource economics
142	International dairy journal
143	Theoretical and applied genetics
144	Plant science :
145	Journal of reproduction & fertility. Abstract series
146	The journal of horticultural science & biotechnology
147	Journal of equine science
148	Entomophaga
149	Japan agricultural research quarterly
150	Journal of plant research
151	Tohoku journal of agricultural research
152	Japanese journal of veterinary research
153	JIRCAS international symposium series
154	JIRCAS working report
155	JIRCAS journal : for scientific papers
156	Proceedings of Tsukuba Asian Seminar on Agricultural Education
157	The Journal of agricultural economics research
158	Agricell report
159	The Australian journal of agricultural economics
160	SABRAO journal
161	Plant production science
162	Abstracts on tropical agriculture
163	Acta agraria et silvestria. Seria agraria
164	Acta agraria et silvestria. Series zootechnica
165	Food science and technology research
166	Systematic entomology
167	Agricultural and biological chemistry.
168	Zoological record. Sect. 13, Insecta. Part E, Hymenoptera
169	Plant ecology
170	Bio/technology
171	Journal of general plant pathology

172	American journal of anatomy
173	Agricultural economics research
174	The Japanese journal of genetics
175	Breeding science
176	American speech : a quarterly of linguistic usage
177	Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University
178	Journal of fermentation and bioengineering.
179	Animal breeding abstracts.
180	Reproduction
181	Journal of natural products
182	Genome research
183	Protein engineering
184	Asian-Australasian journal of animal sciences
185	Journal of graph theory
186	The journal of poultry science
187	Animal science journal
188	Biochimica et biophysica acta
189	Anatomical science international
190	Studies in second language acquisition
191	Applied biological science
192	Tokai journal of experimental and clinical medicine
193	Weed biology and management
194	Memoirs of the Faculty of Agriculture, Kagoshima University
195	The Journal of reproduction and development. -
196	Fellowship research report / Matsumae International Foundation
197	Biotronics : reports of Biotron Institute, Kyushu University
198	Ars combinatoria
199	Protein engineering design & selection : peds
200	Bulletin / Entomological Society of Canada.
201	Botanical review.
202	Bulletin of entomological research
203	Bulletin of environmental contamination and toxicology
204	Canadian journal of genetics and cytology
205	Canadian journal of physiology and pharmacology
206	Crop research
207	Gamma field symposia
208	Genetica
209	Genome
210	International camellia journal
211	International journal of applied radiation and isotopes
212	In vitro
213	The journal of biochemistry
214	The journal of cell biology

215	Monthly weather review
216	Nutrition abstracts and reviews. Ser. B
217	Periodicum biologorum
218	Poultry abstracts
219	Poljoprivredna znanstvena smotra
220	Proceedings of the American Society for Horticultural Science
221	Journal of adolescent health care
222	Proceedings of the Iowa Academy of Sciences
223	Plant biotechnology
224	Review of agricultural entomology
225	Review of plant pathology
226	Rivista di agricoltura subtropicale e tropicale
227	Rural research in CSIRO
228	S.A.B.R.A.O. newsletter
229	Senckenbergiana biologica
230	Sociology and social research
231	Soils and fertilizers
232	Soviet journal of particles and nuclei
233	Spoken English
234	Studies in English literature
235	Studies in English literature 1500-1900
236	Technical bulletin TARC /
237	Transactions of the Kansas Academy of Science
238	Tropical agriculture research series
239	Twentieth century literature
240	The Veterinary bulletin
241	Veterinary parasitology
242	Veterinary medical review
243	World agricultural economics and rural sociology abstracts
244	Grassland science
245	Rangeland ecology & management
246	The Australasian journal of combinatorics
247	British poultry abstracts
248	Journal of combinatorial theory. Series B.
249	Animal : an international journal of animal bioscience
250	Graphs and combinatorics : an Asian journal
251	Animal production

洋雑誌　251種

学生確保の見通し等を記載した書類
農学部農学科

【本文目次】

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p.2
（１）学生の確保の見通し…p.2
１）定員充足の見込み…p.2
２）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p.3
３）学生納付金の設定の考え方…p.4
（２）学生確保に向けた具体的な取組状況…p.4

２．人材需要の動向等社会の要請…p.7
（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）…p.7
（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p.7

学生の確保の見通し等を記載した書類
農学部農学科

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

１）定員充足の見込み

農学部農学科の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な体制として、農学部農学科の入学定員を 80 名、収容定員を 320 名として教育研究活動を開始する計画である。

①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。農学部農学科の学位の分野が含まれる「農学系」の過去５年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況（**【資料①－１】【資料①－２】**「令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26・33）をみると、**【資料①－１】**のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに加え、志願倍率も 9 倍後半～11 倍の水準に達しており、定員充足率もほぼ 100％を満たしている状況である。このうち、**【資料①－２】**のとおり、本学科と類似した学科が含まれる可能性がある学部に焦点を絞ってみてみると、令和２年度においては、「農学部」は約 14.3 倍となっており、**【資料①－１】**の動向と同様に、入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、農学部農学科が受け持つ学問分野について、高い需要があると分析される。

②将来性についての分析

東海大学は、全国に 19 学部（令和３年現在。募集停止学部を除く。）を展開している大規模大学である。農学部農学科は、九州キャンパス（熊本県）で学修を進める計画である。農学部は、全国的に少ない学部であることから、学生は全国から入学してくる。また、同様に、全国に 14 校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在している。

将来的にみると、18 歳人口の減少は避けられない状況であるが、**【資料①-3】**のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していること

から、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

２）定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①今後の人口動態に基づく将来的な分析

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020 年度版）」（リクルート進学総研）に依れば、全国の 18 歳人口の推移は、**【資料②】**のとおり「2020 年 116.7 万人→2032 年 102.3 万人」となり、「約 14.4 万人／12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

加えて、熊本県の 18 歳人口の推移**【資料③】**については、「2020 年 16,971 人→2032 年 15,833 人」と、減少率は「6.7%」であり、全国の減少幅（約 12.3%）に比べて少ないが、減少する傾向が続くこと分かる。

しかしながら、**【資料④】**のとおり、①大学進学率は微増していること、②地元残留率は低下傾向にあるものの 45.5%を維持し増加傾向であること、③流入元をみると福岡県など近隣の件からの流入が多いこと、④特色のある学部・学科においては、県外からの進学者も多い傾向がみられると推察されるなど、マイナスだけではない要素も存在している。

②既設の学部における定員充足状況

既設学部等の現状の受験者数については、**【資料⑤】**のとおり、入学定員を越える志願者数を維持している。実際には、2016 年に発生した熊本地震により、メイン校舎である「阿蘇校舎」が利用不可能（阿蘇実習フィールドとして一部の実習科目でのみ活用している）になっていることから、入学者数等に影響がでていると思われるが、現在、新校舎である「臨空校舎」が 2023 年に完成予定であり、プラス要因を加味すると、引き続き入学定員を超える一定数の志願者数と、現状よりも高水準で入学者を確保することが可能であると、判断することができる。

③類似する分野への大学進学状況

別のデータにおいても検証するため、**【資料⑥】**のとおり、農学部農学科と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、入学定員を越える志願倍率を維持しており、志願者数の確保を見込むことがで

きる。

３）学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者である学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑥】に記載する競合校の学納金と比較しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 （諸会計等）	合計
東海大学 農学部 農学科	80	200,000	1,345,000		59,200	1,604,200
東京農業大学 農学部 農学科	170	270,000	965,600	230,000	57,800	1,523,400
吉備国際大学 農学部 地域創成農学科	50	300,000	1,030,000	350,000	6,000	1,686,000
近畿大学 農学部 農業生産科学科	120	250,000	1,462,000		4,500	1,716,500

注１）本学以外の各大学の情報は、2021年４月時点の公式ウェブサイトにより調査。

注２）各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけではなく、大学への進路

希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサポート活動を行うことである。

令和２（2020）年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和２(2020)年度についてはWeb Open Campusと称し、自宅からでも参加できる「360°キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、ＨＰや各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入学者希望者を増やすことを目指すだけではなく、「入試対策講座」の開催や、体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備されたＷｅｂ等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

①オープンキャンパス（対面、オンライン）計画

・2021年度東海大学開催オープンキャンパス（予定）

対面：6月20日（日）、8月21（土）、8月22日（日）、3月13日（日）

［学科説明、個別面談、キャンパス見学］

ＷＥＢ：7月、8月

・入試対策講座（6月、8月、10月）

・進学相談会、キャンパス見学会

・全国開催進学相談会（約350会場を予定。実施は未定。）

②ＨＰ【受験生・高校教員向け 】受験生情報サイト・ＳＮＳからの情報発信

Ｙｏｕｔｕｂｅチャンネル（東海大学公式）配信動画

■東海大学ホームページ　受験生情報サイト(http://www.tokai-adm.jp/)

■東海大学「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」(https://tokai-marugoto.jp/)

③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進学についてのＰＲだけではなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学のサポートを行っていく計画である。

④大学入試説明会（高校教員対象）：５月～６月にＷｅｂでの開催を予定。

⑤各種メディアからの情報発信（受験情報サイト、メディア企画）

⑥出願促進プロモーション

ＳＮＳ広告、エリアアド、コンビニ広告

交通広告、出願促進ＤＭ（全国の接触者対象）

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、新校舎の完成、学生確保に向けて具体的な取組みにより、入学定員を満たすことができると確信することができる。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

農学部農学科の教育研究上の目的は、実験・実習を通じて直接植物に触れ、地域の自然や農業に接する体験型の教育を通して、「地域の持続的発展に貢献するための食料生産に関する専門的知識を実践的に身に付けていくこと」に加え、刻々と変化していく社会に対して「確固たる自然観や生命観を有し、揺るぎなく進むべき道筋を見出す創造性」「自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力」を身に付けた豊かな人材を養成することである。

（２）上記（1）が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。農学部農学科においては、実習等を通じ専門的な力を身に付けることに加え、刻々と変化していく社会に対して、進むべき道筋を見出す創造性や、自然環境の保全や人類の未来に対して、責任ある社会貢献を継続できる態度と能力を身に付けていくことから、将来的に必要とされる人材像と合致している。

また、**【資料⑦】**のとおり既設学部等の現状から分析すると、既設学科（農学部応用植物科学科）が育成する人材像に合わせて、社会からのニーズは多岐に渡り、多様な分野へ卒業生が就職していることが分かる。

そしてこれらを証明するように、**【資料⑧】**のとおり応用植物科学科の就職決定率は 2018 年度 100%、2019 年度 98.3%となっていることに加え、本学への求人については、**【資料⑨-1】**の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えている。そして、**【資料⑨-2】**のとおり、全国から求人が寄せられている状況から、東海大学の教育研究体制への理解に加え、農学部の教育研究上の目的は理解され、社会から求められており、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以　上

学生確保の見通し等を記載した書類
農学部農学科

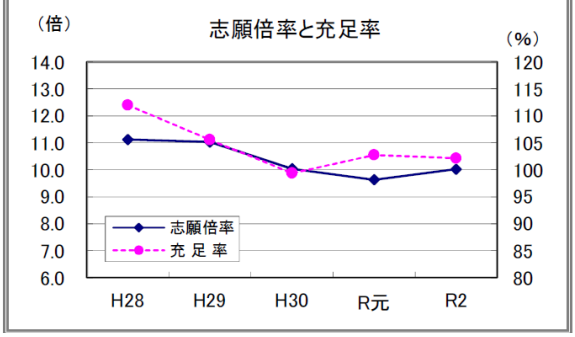
【資料目次】

【資料①-1】令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26）…p.2
【資料①-2】令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.33）…p.2
【資料①-3】「令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。…p.2
【資料②】リクルート進学総研マーケットリポートVol.82 2021年3月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020年度版）6ページより抜粋…p.3
【資料③】リクルート進学総研マーケットリポート Vol.93 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 九州沖縄版」（2020年度版）2ページより抜粋」…p.3
【資料④】リクルート進学総研マーケットリポート Vol.93 2021年4月号「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 九州沖縄版」（2020年度版）15ページより抜粋…p.4
【資料⑤】既設学科の学生確保の状況…p.4
【資料⑥】「リクルート　入試実態調査」…p.5
【資料⑦】既設学科の就職先…p.5
【資料⑧】既設学科の就職決定率…p.6
【資料⑨-1】東海大学産業別求人会社数…p.6
【資料⑨-2】東海大学地域別求人会社数…p.7

【資料①-1】

農学系

年　　度	H28	H29	H30	R元	R2
学 部 数	18	18	21	22	23
志願倍率	11.12	11.03	10.04	9.63	10.02
充 足 率	111.99	105.59	99.36	102.76	102.15



「令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.26）

【資料①-2】

５．主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数３以上の学部とし、集計数２以下は「その他」とした。

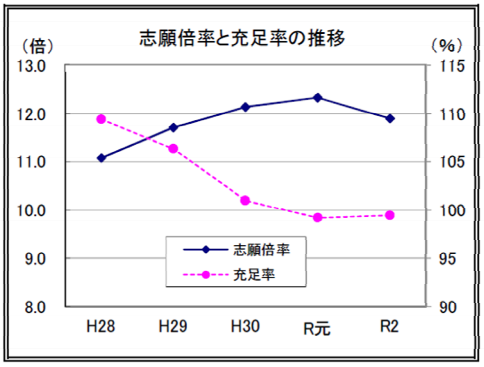
系統区分	集計学部数			入学定員（人）			志願者（人）			入学者数（人）			入学定員充足率（%）		
学部名	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減
農学部	9	10	1	3,309	3,671	362	45,347	52,530	7,183	3,279	3,562	283	99.09	97.03	△ 2.06
獣医学部	4	4	0	970	970	0	12,867	11,910	△ 957	1,029	1,037	8	106.08	106.91	0.83
その他	9	9	0	4,130	4,143	13	22,726	23,542	816	4,333	4,374	41	104.92	105.58	0.66

「令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.33）

【資料①-3】

大規模大学（収容定員8000人以上）

年度	H28	H29	H30	R元	R2
学校数(校)	43	44	46	46	48
入学定員(人)	184,729	191,963	200,368	201,139	206,375
志願者(人)	2,047,202	2,247,102	2,432,551	2,480,804	2,455,871
受験者(人)	1,958,074	2,150,641	2,330,257	2,367,125	2,329,872
合格者(人)	595,366	583,179	558,289	572,392	647,736
入学者(人)	202,106	204,136	202,399	199,522	205,266
志願倍率(倍)	11.08	11.71	12.14	12.33	11.90
合格率(%)	30.41	27.12	23.96	24.18	27.80
歩留率(%)	33.95	35.00	36.25	34.86	31.69
充足率(%)	109.41	106.34	101.01	99.20	99.46



「令和２（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」

（日本私立学校振興・共済事業団）令和 2 年 10 月）37 ページより抜粋。

【資料②】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体　計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	90.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021 年 3 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020 年度版）6 ページより抜粋

【資料③】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2
福岡	人数	47,546	46,524	45,564	45,254	44,253	45,976	47,200	47,398	46,981	47,766	46,833	46,402	46,197
	指数	100.0	97.9	95.8	95.2	93.1	96.7	99.3	99.7	98.8	100.5	98.5	97.6	97.2
佐賀	人数	8,793	8,412	8,172	8,077	7,802	8,081	8,174	8,024	7,738	7,795	7,780	7,455	7,411
	指数	100.0	95.7	92.9	91.9	88.7	91.9	93.0	91.3	88.0	88.7	88.5	84.8	84.3
長崎	人数	13,387	12,691	12,437	12,136	11,814	11,976	11,917	11,991	11,665	11,727	11,683	11,353	11,431
	指数	100.0	94.8	92.9	90.7	88.2	89.5	89.0	89.6	87.1	87.6	87.3	84.8	85.4
熊本	人数	16,971	16,741	16,348	16,154	15,706	16,036	16,530	16,382	16,309	16,419	16,217	15,870	15,833
	指数	100.0	98.6	96.3	95.2	92.5	94.5	97.4	96.5	96.1	96.7	95.6	93.5	93.3
大分	人数	10,709	10,244	10,178	9,861	9,650	10,007	9,969	10,155	9,837	9,992	9,641	9,512	9,461
	指数	100.0	95.7	95.0	92.1	90.1	93.4	93.1	94.8	91.9	93.3	90.0	88.8	88.3
宮崎	人数	10,903	10,517	10,262	10,144	9,794	10,061	10,475	10,244	10,241	10,232	10,154	9,749	9,830
	指数	100.0	96.5	94.1	93.0	89.8	92.3	96.1	94.0	93.9	93.8	93.1	89.4	90.2
鹿児島	人数	15,958	15,625	15,445	15,086	14,831	15,163	15,174	15,320	15,159	15,237	15,177	14,868	14,434
	指数	100.0	97.9	96.8	94.5	92.9	95.0	95.1	96.0	95.0	95.5	95.1	93.2	90.4
沖縄	人数	16,920	16,363	16,131	16,157	15,808	16,389	16,566	16,933	16,823	17,232	16,962	16,928	17,040
	指数	100.0	96.7	95.3	95.5	93.4	96.9	97.9	100.1	99.4	101.8	100.2	100.0	100.7

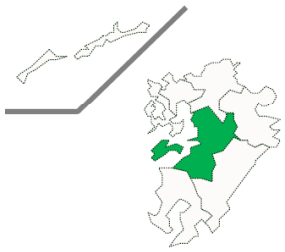
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

リクルート進学総研マーケットリポート Vol93 2021 年 4 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 九州沖縄版」（2020 年度版）2 ページより抜粋

【資料④】

熊本県



学校数
大学　　：9　（国立 1・公立1 ・私立 7）
短期大学 ：2　（私立 2）
専門学校 ：45　（公立 4・私立 41）

卒業者数
2011年16,635人→2020年14,931人（1,704人減少）

進学者数
大学　　：2011年6,275人→2020年6,141人（134人減少）
短期大学：2011年　696人→2020年　512人（184人減少）
専門学校：2011年3,362人→2020年2,678人（684人減少）

進学率（現役）
大学　　：2011年37.7%→2020年41.1%（3.4ポイント上昇）
短期大学：2011年　4.2%→2020年　3.4%（0.8ポイント低下）
専門学校：2011年20.2%→2020年17.9%（2.3ポイント低下）

残留率
大学　　：2011年47.3%→2020年45.5%（1.8ポイント低下）
短期大学：2011年54.5%→2020年64.5%（10.0ポイント増加）

入学者流入元　※地元は除く
大学　　：1位福岡（695人）、2位鹿児島（340人）、3位宮崎（277人）
短期大学：1位福岡・鹿児島（6人）、2位北海道・長崎・宮崎　（2人）

入学者流出先
大学　　：1位福岡（1,333人）、2位東京（512人）、3位鹿児島（228人）
短期大学：1位福岡　（116人）、2位大分　（28人）、3位佐賀　（12人）

・学校数　　：大学・短期大学は本部の所在地　（2020年学校基本調査より）
・卒業者数　：高等学校卒業した数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)
・進学者数　：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した数
・進学率(現役)：進学者数（大学・短期大学・専門学校※2）÷高等学校卒業者数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)
・残留率　　：自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入　　：自県内（地元）の大学・短期大学に入学したうち、自県以外の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと（浪人含）
・流出　　：自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学したこと（浪人含）

リクルート進学総研マーケットリポート Vol93 2021 年 4 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 九州沖縄版」（2020 年度版）　15 ページより抜粋

【資料⑤】

既設学部等の学生確保の状況

農学部　応用植物科学科（入学定員80名）

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	530	501	281	82	6.6	1.02
2017年度	494	469	272	81	6.2	1.01
2018年度	442	417	246	69	5.5	0.86
2019年度	465	441	286	79	5.8	0.98
2020年度	413	390	287	76	5.2	0.95
2021年度	325	308	242	56	4.1	0.70

【資料⑥】

学部・学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
農学部 農学科	東京農業大学	東京	農学部	農学科	募集人員	220	220	220	220	220	220	220	170	170	170
					志願者数(合計)	4,373	4,560	4,312	4,039	3,623	3,814	3,405	2,567	2,144	1,964
					志願倍率	19.9	20.7	19.6	18.4	16.5	17.3	15.5	15.1	12.6	11.6
	吉備国際大学	岡山	農学部	地域創成農学科	募集人員								42	42	42
					志願者数(合計)								84	123	97
					志願倍率								2.0	2.9	2.3
	近畿大学	大阪	農学部	農業生産科学科	募集人員	110	110	110	110	110	110	120	120	120	120
					志願者数(合計)	1,995	1,445	2,229	2,291	2,559	2,142	2,873	2,452	2,321	2,346
					志願倍率	18.1	13.1	20.3	20.8	23.3	19.5	23.9	20.4	19.3	19.6

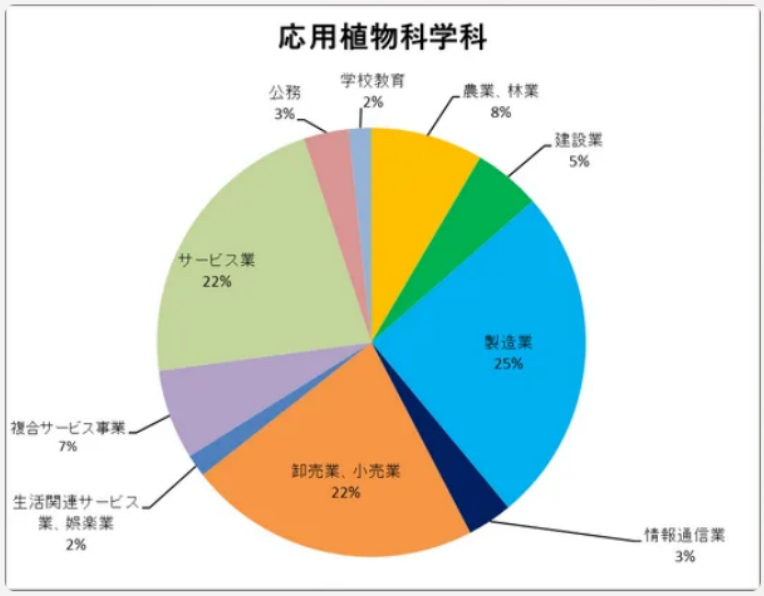
「リクルート　入試実態調査」
株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

【資料⑦】

主な就職先

興農園/果実堂/東武緑地/丸大食品/熊本製粉/カルビーポテト/国際衛生/三井ハイテック/トーホー/西日本花き/タキイ種苗/全国共済農業協同組合連合会長崎県本部/土木管理総合試験所/ハウステンボス/兵庫県庁/福生市役所/高等学校（京都府、大分県、福岡県）/青年海外協力隊（ザンビア）

※　2019年度



東海大学 HP より抜粋

【資料⑧】

2）学部

2020年５月15日現在

＜就職決定率の算出方法＞

※就職決定率＝調査時点の就職決定者数／就職希望者数 ×100

※決定者数＝「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年５月21日時点の数値

＜就職希望者数の算出方法＞

※2019年度就職希望者数＝キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」の者＋就職希望者の内「３月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

学部	学科	専攻・課程等	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	2019年度 決定率（%）	2019年度 進学者数	2018年度 決定率（%）
農学部	応用植物科学科		68	59	58	98.3	6	100.0
	応用動物科学科		73	67	64	95.5	3	98.6
	バイオサイエンス学科		59	50	50	100.0	5	100.0
	合計		200	176	172	97.7	14	99.5

【資料⑨-1】

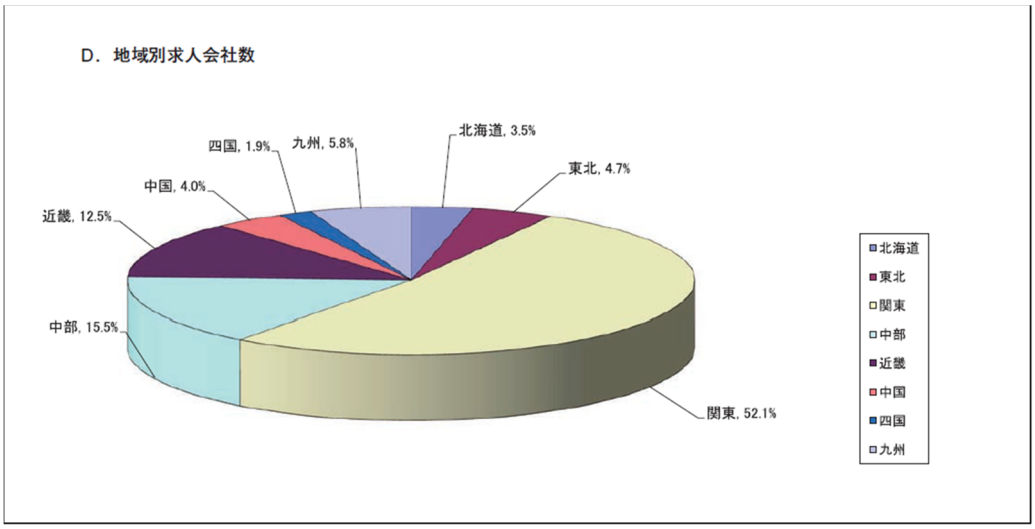
2019 年度　東海大学産業別求人会社数

産業		2019年度
メーカー	農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産	66
	建設・住宅・不動産	1,624
	水産・食品	251
	素材・化学	244
	医薬品・医療関連・化粧品	95
	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	63
	鉄鋼・非鉄・金属製品	362
	機械・プラントエンジニアリング	434
	電子・電機	472
	自動車・輸送用機器	329
	精密機器・医療用機器	174
	印刷・パッケージ	84
	OA 機器・家具・スポーツ・玩具・その他	136
	小計	4,334
エネルギー		88
金融	銀行	27
	信用金庫・労働金庫	75
	信販・クレジット・ファイナンス	10
	その他金融	29
	リース・レンタル	47
	保険	66
	証券・投信・投資顧問	34
	小計	288

産業		2019年度
商社	商社（総合）	93
	商社（水産・食品）	117
	商社（ファッション関連）	62
	商社（素材関連）	52
	商社（化学・医薬品・化粧品）	67
	商社（エネルギー）	20
	商社（精密機器・医療用機器）	156
	商社（自動車・輸送用機器）	212
	商社（家具・インテリア・日用品）	25
	商社（鉄鋼・非鉄・金属製品）	67
	その他商社	235
	小計	1,106
流通	百貨店	16
	コンビニエンス・GMS ストア	94
	生活協同組合	26
	専門店（ファッション関連）	111
	専門店（エンターテインメント）	9
	専門店（電器）	18
	専門店（家具・インテリア）	4
	専門店（フード）	23
	専門店（ドラッグストア・調剤薬局）	39
	専門店（自動車関連）	112
	専門店（動物関連）	3
	その他専門店	105
	小計	560

産業		2019年度
サービス	フードサービス	127
	ホテル・旅行	179
	その他の教育・学習支援業	91
	エンターテインメント	54
	調査・コンサルタント	200
	人材紹介・人材派遣	107
	その他サービス	856
	小計	1,614
IT・情報処理	情報処理・ソフトウエア	1,475
	情報・インターネットサービス	196
	小計	1,671
情報（通信・マスコミ）	通信関連	87
	マスコミ	324
	小計	411
運輸・倉庫	運輸	241
	倉庫	63
	小計	304
官公庁・団体		373
教育機関		113
医療・福祉施設		675
専門・技術サービス業		38
	合計	11,575

2019 年度卒業生数 6,281 名


D．地域別求人会社数
北海道, 3.5%
東北, 4.7%
関東, 52.1%
中部, 15.5%
近畿, 12.5%
中国, 4.0%
四国, 1.9%
九州, 5.8%
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
四国
九州